

第1回 短期大学生調査 データ活用セミナー

日 時 : 令和4年8月29日（金）15：00～16：30

開催形態：オンライン（Zoomウェビナー）

発表者：大学・短期大学基準協会調査研究委員会

調査分析チーム 堺完（大分大学） ・ 山崎慎一（桜美林大学）

アウトライン

1. 本セミナーの趣旨と調査事業の概要
2. フィードバック内容をもとにした可視化の方法
3. 調査結果を活用した教育の内部質保証事例

1. 本セミナーの趣旨と調査事業の概要

本セミナーの趣旨

- グランドデザイン答申、教学マネジメント指針が重視する「学修者本位」の教育
- 各大学が教育上の方針や目標を設定し、それに基づく学修目標の達成状況を把握、継続的な改善を行うよう求められてる
 - = 教育の内部質保証
- 上記を把握する方法として、在学生への学生調査や卒業生へのアンケート調査が例示

学生調査事業の概要と実績

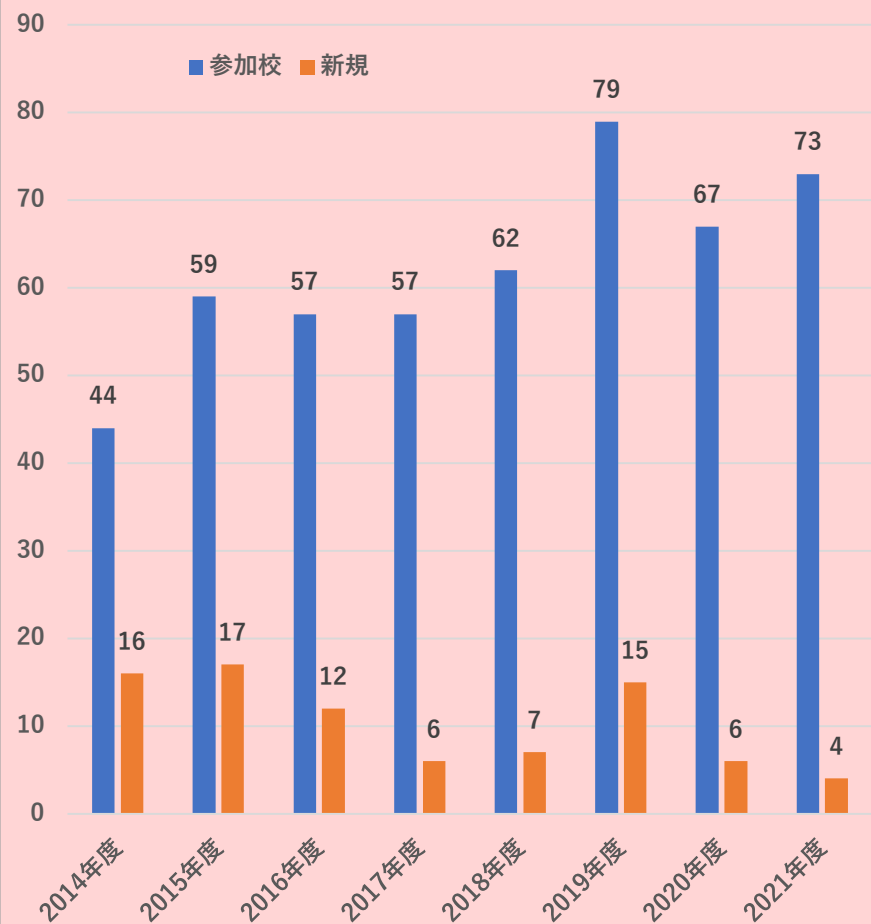
短期大学生調査（在学生）

- 各短期大学における自己点検・評価や内部質保証サイクルに資するデータ収集ツールの提供
- 調査研究委員会にて、2008年度から10年間「短期大学における主体的改革・改善に資する自己点検・評価方法に関する調査研究として研究開発
- 日本版大学生調査（JCSS）を一部編集して短大生調査（JJCSS）を2008年度より実施
- 2014年度に調査内容を大幅に見直して、短大生調査（*Tandaiseichousa*）に改定
- 2015年度より希望校に対して分野分類コードによる学科・専攻課程別の集計を実施可能に
- 2018年度より「短期大学生調査」を事業化
- 2020年度より希望校に対して質問紙調査の代替手段としてweb調査を実施

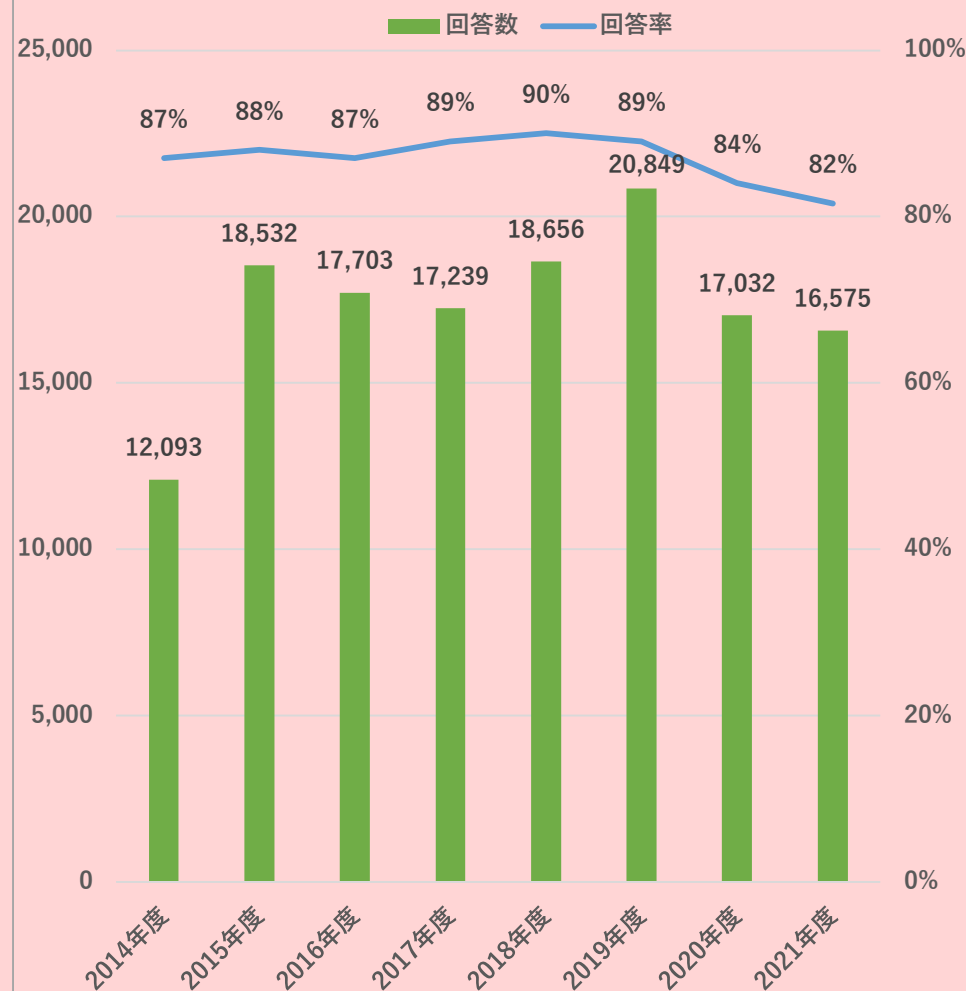
＋卒業生調査：短期大学で学ぶ意義（短期大学の特色との整合性）、在学時の教育プログラムと卒業後の職業との関連性（レリバンズ）を確認できる調査をコンセプトとして、2018年度より研究開発

短期大学生調査（在学生） 調査実績

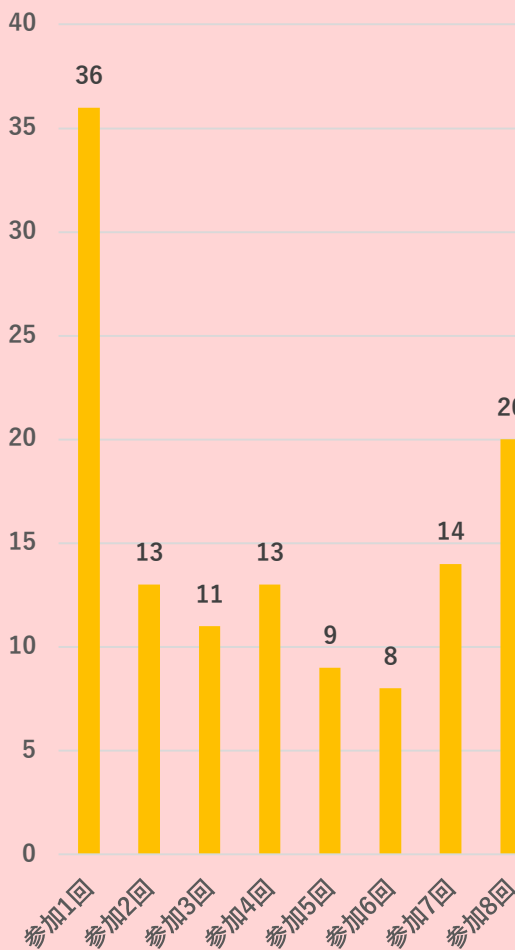
参加校数



回答数（率）



参加回数別校数



短期大学生調査の設問内容

設問番号	設問内容	回答数	設問番号	設問内容	回答数
問1	性別	1	問14	読書経験（量）	2
問2	年齢	1	問15	課外活動の経験	6
問3	学年	1	問16	現在の成績状況	1
問4	居住形態	1	問17	満足度（施設・学生サービス）	13
問5	通学時間	1	問18	満足度（教育）	6
問6	志望度（第一志望）	1	問19	入学後の知識・技能の変化	22
問7	内部進学者	1	問20	将来のキャリア志望	1
問8	入試区分	1	問21	学内の経済的援助の有無	1
問9	進学選択時の重要度	15	問22	学費等の経済的負担割合	1
問10	進学アスピレーション	1	問23	学生生活の充実度	1
問11	授業における経験	17	問24	他者への短期大学推奨度	1
問12	1週間あたりの活動時間	4	問25	短期大学の総合評価	5
問13	教員との関わり合い	4			

➤調査実施後アンケートにみる参加校の活用実態

⇒直近3回（2019,2020,2021年度）の実施後アンケート（毎年参加校の約3割がアンケートに回答）

- 継続的に調査に参加している短期大学では、教務や入試、学生支援、自己点検・評価関連の委員会等にて調査結果を報告
- 一部の短期大学では、FDやSDとして調査結果を教職員で共有したり、執行部の会議等でも報告したりと学生の現状を把握する資料として活用
- 全体と個別の比較や経年比較、学科・専攻課程別の比較などを中心に、調査結果を活用している様子がうかがえる

☆ただ、実施後アンケートに回答してくれるところは大体固定化し、それ以外（アンケート未回答の6割）の参加校が実際にどのように活用しているか（もしくは活用されていないか）は不透明

- 今回のセミナーの目的は、今まであまり活用できていなかった、もしくは今後本調査に参加予定の短期大学を対象に、調査結果やデータを実際に見てもらう、使ってもらうための方法や考え方、事例を示し、少しでも活用につなげてもらう
- 基本的には参加校にフィードバックされているファイルをもとに、エクセルでできることを中心に可視化（見える化）を行う
- 調査実施後に返ってきた調査結果やデータを使ってどんなことができるか順にみていく

参加校へのフィードバック内容

1. 全体集計表①（各設問の単純集計結果）
2. 全体集計表②（性別,学年等と各設問のクロス集計結果）
3. 個別短期大学の回答データ（ローデータ）
4. 個別短期大学の全体集計表①（各設問の単純集計結果）
5. 個別短期大学の全体集計表②（性別,学年等と各設問のクロス集計結果）
6. グラフ・表作成用テンプレート

【学科・専攻課程別】 ※追加料金

7. 個別短期大学（学科・専攻別）全体集計表①（各設問の単純集計結果）
8. 個別短期大学（学科・専攻別）全体集計表②（性別,学年等と各設問のクロス集計結果）

2021_00_全体集計

ファイル ホーム 共有 表示

市ヶ谷短期大学 (ダミー) > 2021 > 2021_00_全体集計

名前

- 2021_00_全体_単純集計
- 2021_00_全体_Q1クロス集計
- 2021_00_全体_Q3クロス集計
- 2021_00_全体_Q6クロス集計
- 2021_00_全体_Q7クロス集計
- 2021_00_全体_Q8クロス集計
- 2021_00_全体_Q16クロス集計

クイック アクセス

- Creative Cloud Files
- OneDrive
- PC
- 3D オブジェクト
- ダウンロード
- デスクトップ
- ドキュメント
- ピクチャ
- ビデオ
- ミュージック
- Windows (C:)

2021_01_市ヶ谷短期大学

ファイル ホーム 共有 表示

市ヶ谷短期大学 (ダミー) > 2021 > 2021_01_市ヶ谷短期大学

名前	種類	サイズ
2021_01_市ヶ谷短期大学_ローデータ	Microsoft Excel ワークシート	91 KB
2021_01_市ヶ谷短期大学_単純集計	Microsoft Excel ワークシート	124 KB
2021_01_市ヶ谷短期大学_Q1クロス集計	Microsoft Excel ワークシート	95 KB
2021_01_市ヶ谷短期大学_Q3クロス集計	Microsoft Excel ワークシート	114 KB
2021_01_市ヶ谷短期大学_Q6クロス集計	Microsoft Excel ワークシート	96 KB
2021_01_市ヶ谷短期大学_Q7クロス集計	Microsoft Excel ワークシート	96 KB
2021_01_市ヶ谷短期大学_Q8クロス集計	Microsoft Excel ワークシート	121 KB
2021_01_市ヶ谷短期大学_Q16クロス集計	Microsoft Excel ワークシート	115 KB
2021_01_市ヶ谷短期大学健康栄養学科_単純集計	Microsoft Excel ワークシート	122 KB
2021_01_市ヶ谷短期大学健康栄養学科_Q1クロス集計	Microsoft Excel ワークシート	94 KB
2021_01_市ヶ谷短期大学健康栄養学科_Q3クロス集計	Microsoft Excel ワークシート	111 KB
2021_01_市ヶ谷短期大学健康栄養学科_Q6クロス集計	Microsoft Excel ワークシート	95 KB
2021_01_市ヶ谷短期大学健康栄養学科_Q7クロス集計	Microsoft Excel ワークシート	92 KB
2021_01_市ヶ谷短期大学健康栄養学科_Q8クロス集計	Microsoft Excel ワークシート	118 KB
2021_01_市ヶ谷短期大学健康栄養学科_Q16クロス集計	Microsoft Excel ワークシート	111 KB
2021_01_市ヶ谷短期大学子ども教育学科_単純集計	Microsoft Excel ワークシート	119 KB
2021_01_市ヶ谷短期大学子ども教育学科_Q1クロス集計	Microsoft Excel ワークシート	90 KB
2021_01_市ヶ谷短期大学子ども教育学科_Q3クロス集計	Microsoft Excel ワークシート	107 KB
2021_01_市ヶ谷短期大学子ども教育学科_Q6クロス集計	Microsoft Excel ワークシート	91 KB
2021_01_市ヶ谷短期大学子ども教育学科_Q7クロス集計	Microsoft Excel ワークシート	91 KB
2021_01_市ヶ谷短期大学子ども教育学科_Q8クロス集計	Microsoft Excel ワークシート	113 KB
2021_01_市ヶ谷短期大学子ども教育学科_Q16クロス集計	Microsoft Excel ワークシート	108 KB

クイック アクセス

- Creative Cloud Files
- OneDrive
- PC
- 3D オブジェクト
- ダウンロード
- デスクトップ
- ドキュメント
- ピクチャ
- ビデオ
- ミュージック
- Windows (C:)
- ローカル ディスク (D:)
- ネットワーク

グラフ・表作成用テンプレート

ファイル ホーム 共有 表示

市ヶ谷短期大学 (ダミー) > 2021 > グラフ・表作成

名前	種類	サイズ
2021_グラフ・表作成用_市ヶ谷短期大学	Microsoft Excel ワ...	6,014 KB
グラフ・表作成用テンプレートについて	Adobe Acrobat D...	286 KB

クイック アクセス

- Creative Cloud Files
- OneDrive
- PC

使用するデータ

- 過去の短期大学生調査データの一部利用編集して、仮想の短期大学の調査データを作成
- 経年比較や学年、学科・専攻課程別比較を可能とするため、3か年分、2学科分のデータあり
- 仮想データ（市ヶ谷短期大学）のプロファイル

	子ども教育学科		健康栄養学科		計
	1年生	2年生	1年生	2年生	
2019年度	77	72	42	41	232
2020年度	78	56	29	42	205
2021年度	68	69	40	36	213
計	223	197	111	119	650

使用する設問内容

・問9_進学選択時の重要度

全15項目で「重視した」「やや重視した」「あまり重視していない」「まったく重視していない」の4件法で項目ごとに択一回答

・問11_授業における経験

全17項目で「よくあった」「ときどきあった」「あまりなかった」「まったくなかった」の4件法で項目ごとに択一回答

・問17_満足度（施設・学生サービス）

全13項目で「5=満足」「4=やや満足」「3=普通」「2=やや不満」「1=不満」の5件法で項目ごとに択一回答。大学に項目に該当する施設やサービスがない場合は「9=該当なし」を回答可。今回は「該当なし」は集計除外

・問18_満足度（教育）

全6項目で「5=満足」「4=やや満足」「3=普通」「2=やや不満」「1=不満」の5件法で項目ごとに択一回答。項目に関連した教育を受けたことがない場合は「わからない」を回答可。今回は「わからない」は集計除外

・問19_入学後の知識・技能の変化

全22項目で「5=大きく増えた」「4=増えた」「3=変わってない」「2=減った」「1=大きく減った」の5件法で項目ごとに択一回答

・問23_学生生活の充実度

1項目で現在の学生生活充実度を「充実している」「ある程度充実している」「普通である」「あまり充実していない」「充実していない」の5件法で択一回答

・問24_他者への短期大学推奨度

1項目で自分の進学した学校を親しい人にすすめるかを「すすめられる」「ややすすめられる」「どちらでもない」「あまりすすめられない」「すすめられない」の5件法で択一回答

・問25_短期大学の総合満足度

短期大学の他の学生、教員、職員、キャンパス、在学時の学び全般の全5項目を「5=とても肯定的」「4=やや肯定的」「3=中間評価」「2=やや否定的」「1=とても否定的」の5件法で項目ごとに択一回答

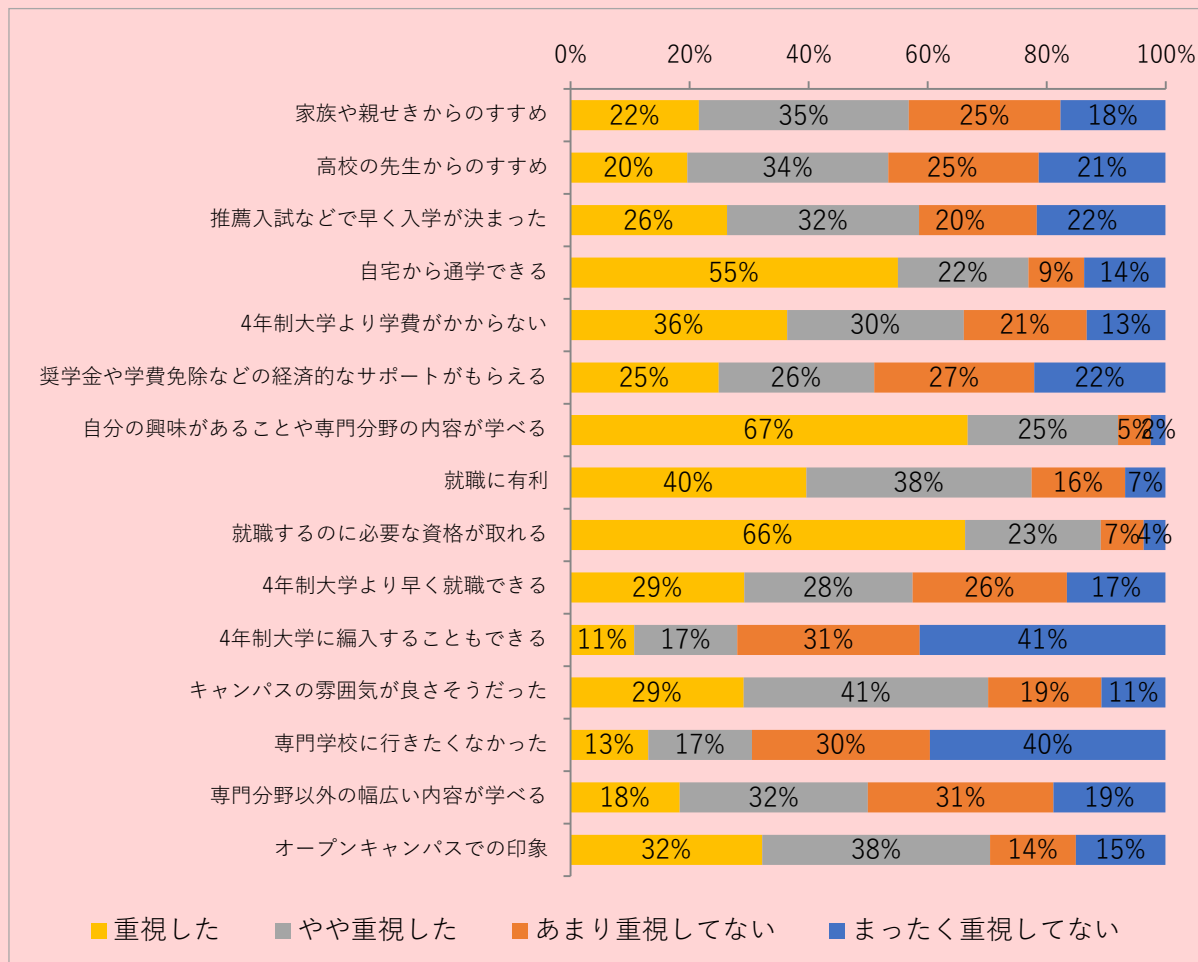
2. フィードバック内容をもとにした 可視化の方法

フィードバック内容を可視化①

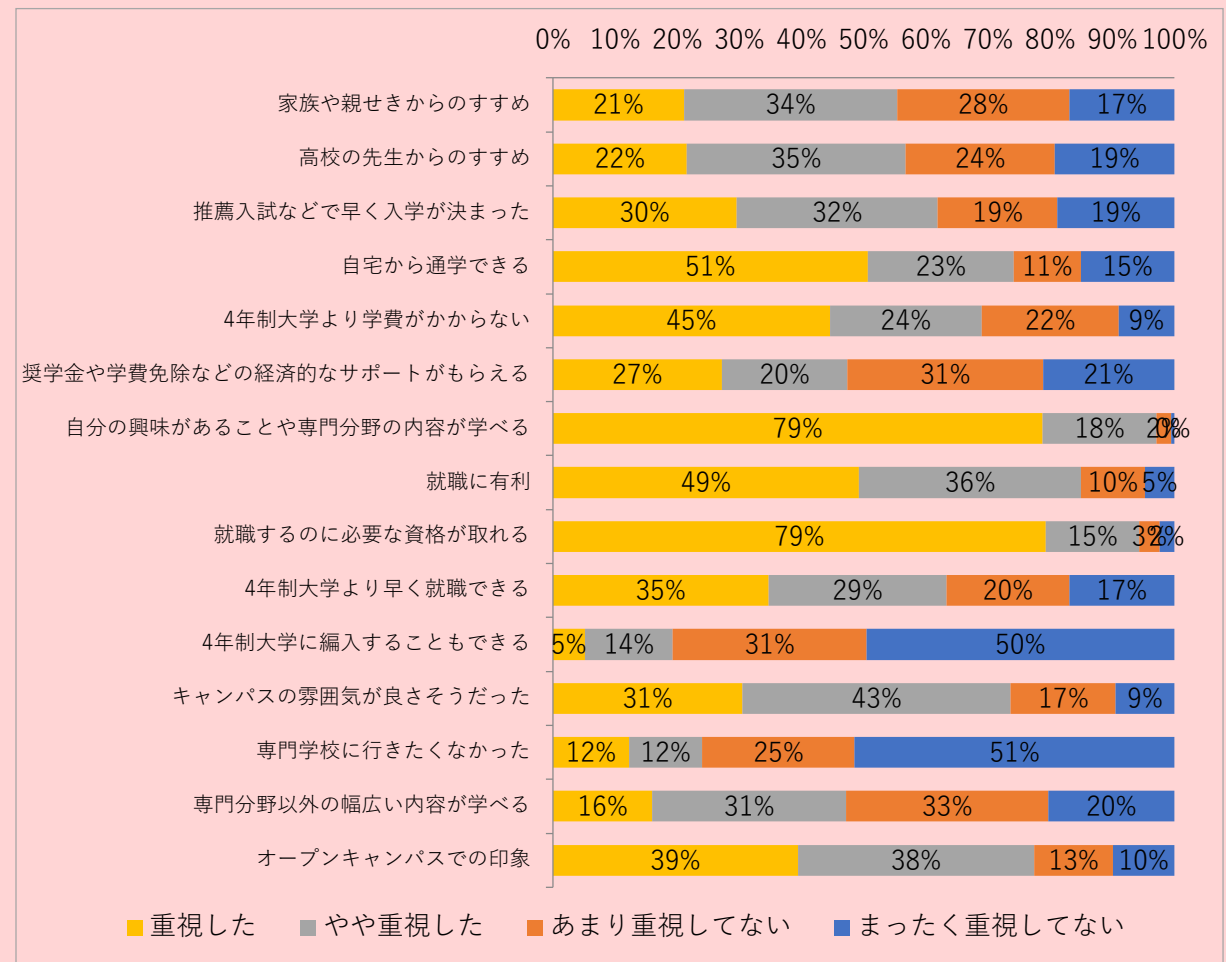
- フィードバック内容をもとに参加校全体と自校の全体結果を比べることで**自校の「立ち位置」**を把握する
- できれば単年度だけでなく**複数年度**でも確認するのが望ましい
 - ① 単に全国と比較して、自校の結果の優劣を把握する以外に、複数年度で自校の回答をモニタリングすることで、学生の回答傾向をつかむ
 - ② 年度が違っても回答に変化があるか。カリキュラムやプログラム、各種支援策の導入、設備の更新など教育や学習環境の変化によって何かしらの変化があったか

I：全体と自校（全体）の単年度比較 （2021年度調査 問9_進学選択時の重要度_項目順）

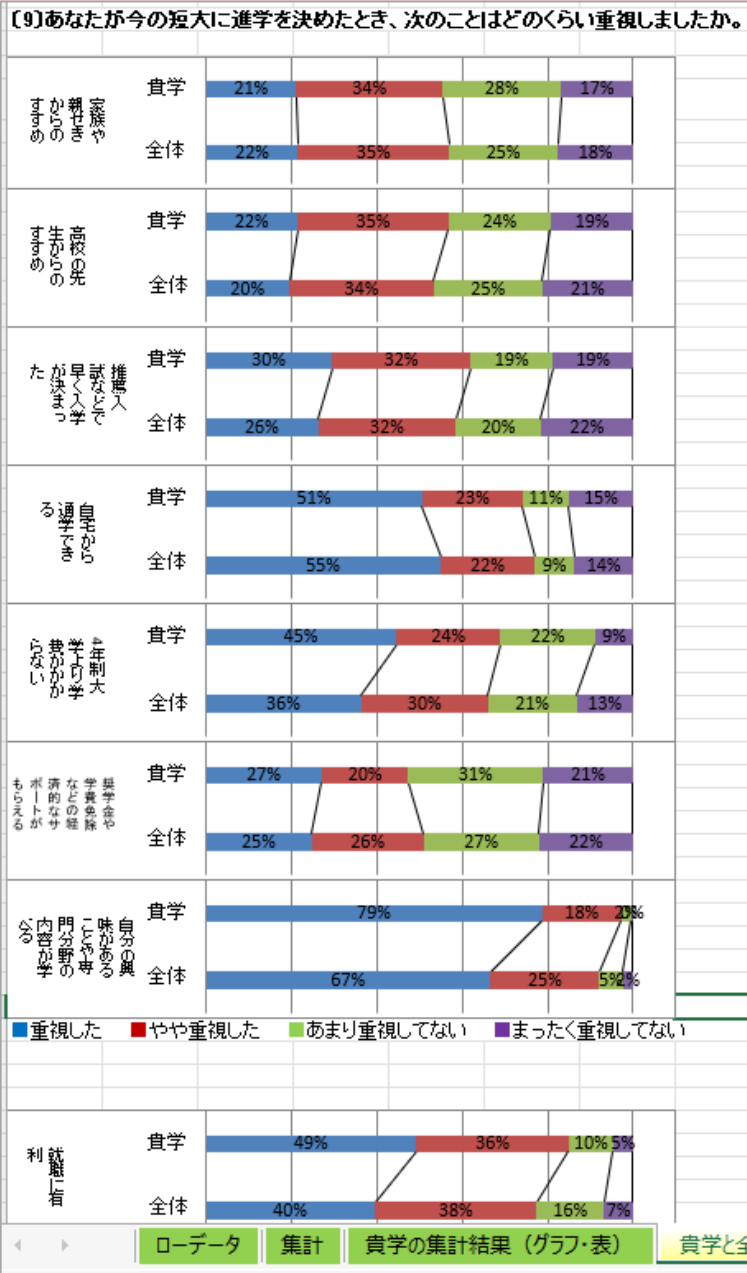
参加校全体（N=16,575）



市ヶ谷短期大学全体（N=213）



フィードバック内の
グラフ・表作成用テンプレートでは下記の
グラフと表のように
自校と参加校全体が比較可能



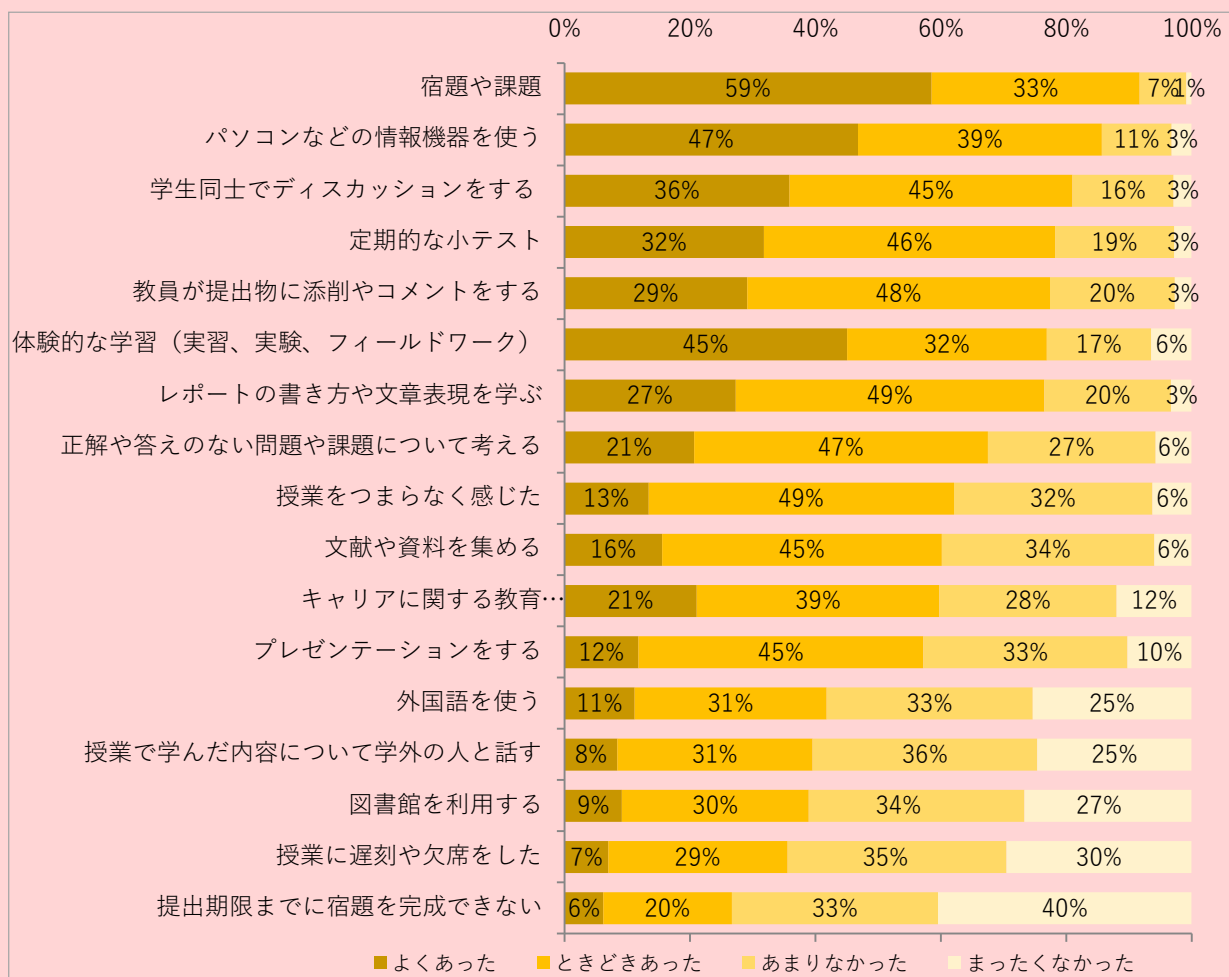
【9】あなたが今の短大に進学を決めたとき、次のことはどのくらい重視しましたか。

		選択肢4 重視した	選択肢3 やや重視した	選択肢2 あまり重視してない	選択肢1 まったく重視してない	合計
家族や親せきからのすすめ	貴学	45	73	59	36	213
	全体	21%	34%	28%	17%	100%
高校の先生からのすすめ	貴学	3565	5826	4205	2919	16515
	全体	22%	35%	25%	18%	100%
推薦入試などで早く入学が決まった	貴学	46	75	51	41	213
	全体	22%	35%	24%	19%	100%
自宅から通学できる	貴学	3239	5578	4169	3518	16504
	全体	20%	34%	25%	21%	100%
4年制大学より学費がかからない	貴学	63	69	41	40	213
	全体	30%	32%	19%	19%	100%
奨学金や学費免除などの経済的なサポートがもらえる	貴学	4336	5313	3269	3560	16478
	全体	26%	32%	20%	22%	100%
自分の興味があることや専門分野の内容が学べる	貴学	108	50	23	32	213
	全体	51%	23%	11%	15%	100%
奨学金や学費免除などの経済的なサポートがもらえる	貴学	9078	3620	1543	2268	16509
	全体	55%	22%	9%	14%	100%
自分の興味があることや専門分野の内容が学べる	貴学	95	52	47	19	213
	全体	45%	24%	22%	9%	100%
奨学金や学費免除などの経済的なサポートがもらえる	貴学	6004	4890	3413	2190	16497
	全体	36%	30%	21%	13%	100%
自分の興味があることや専門分野の内容が学べる	貴学	58	43	67	45	213
	全体	27%	20%	31%	21%	100%
奨学金や学費免除などの経済的なサポートがもらえる	貴学	4102	4312	4443	3639	16496
	全体	25%	26%	27%	22%	100%
自分の興味があることや専門分野の内容が学べる	貴学	167	39	5	1	212
	全体	79%	18%	2%	0%	100%
奨学金や学費免除などの経済的なサポートがもらえる	貴学	11013	4186	904	410	16513
	全体	67%	25%	5%	2%	100%

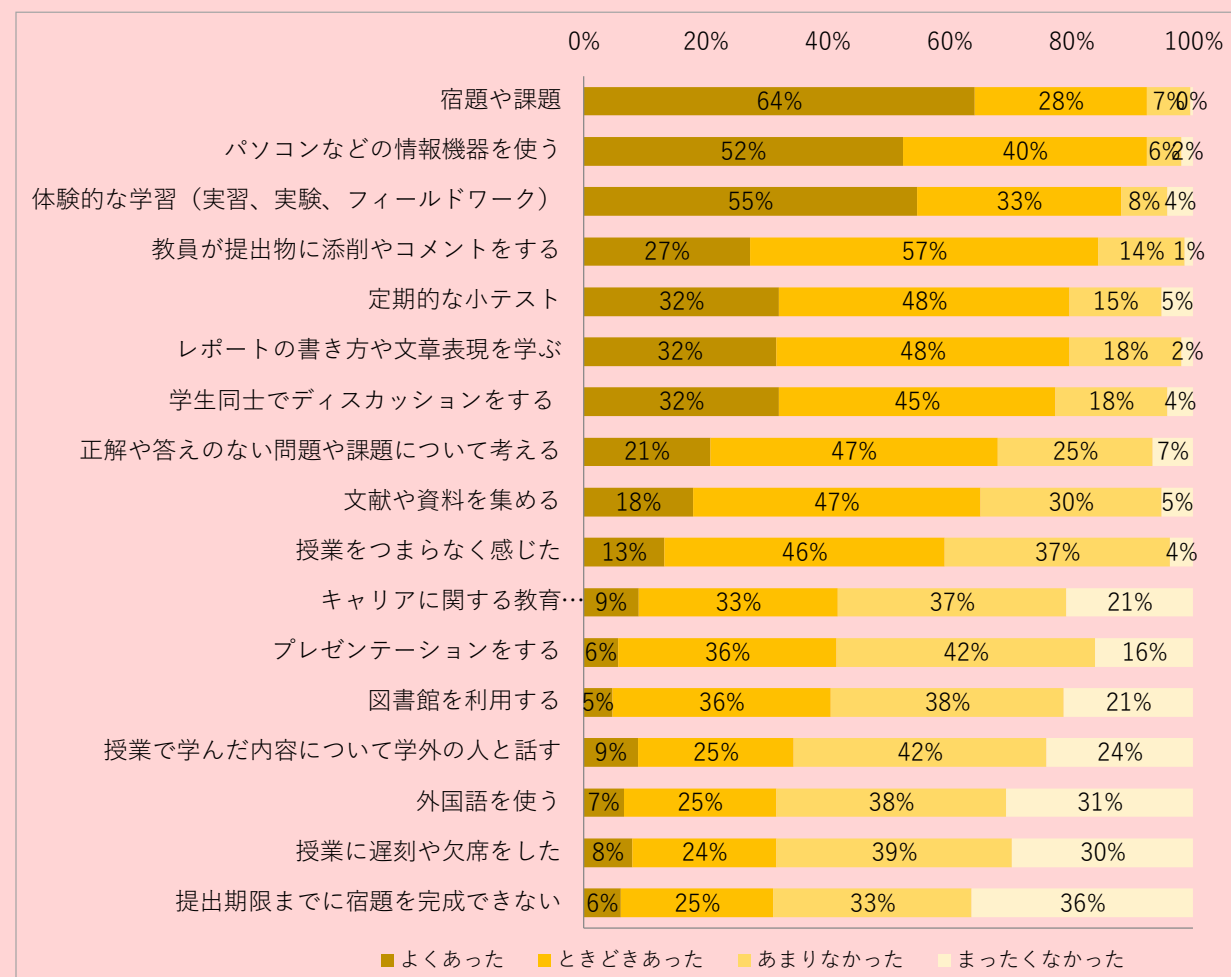
（続く）

I：全体と自校（全体）の単年度比較 （2021年度調査 問11_授業における経験_回答割合降順）

参加校全体（N=16,575）



市ヶ谷短期大学全体（N=213）

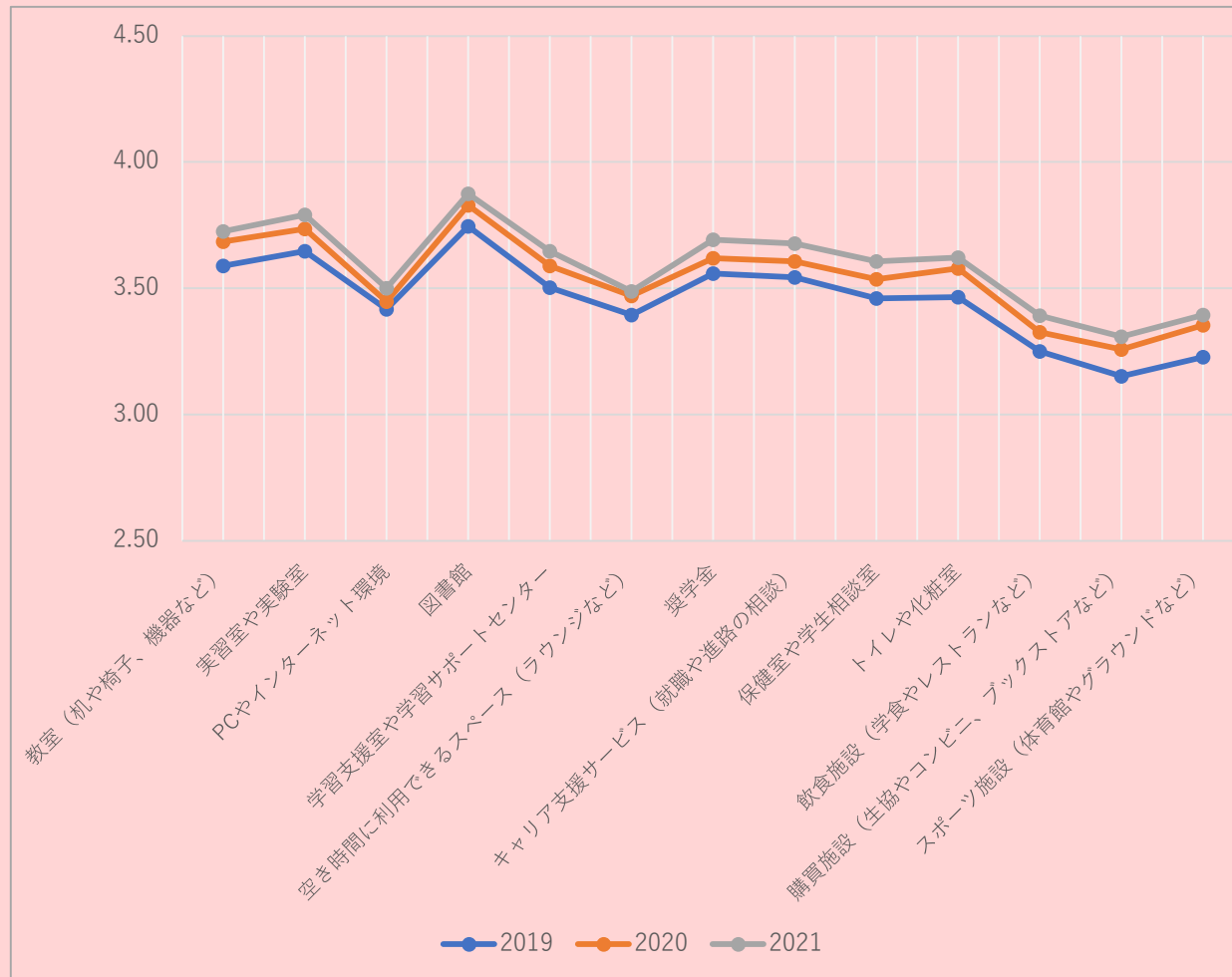


Ⅱ：全体と自校（全体）の複数年比較

問17 満足度（施設・学生サービス）3か年比較

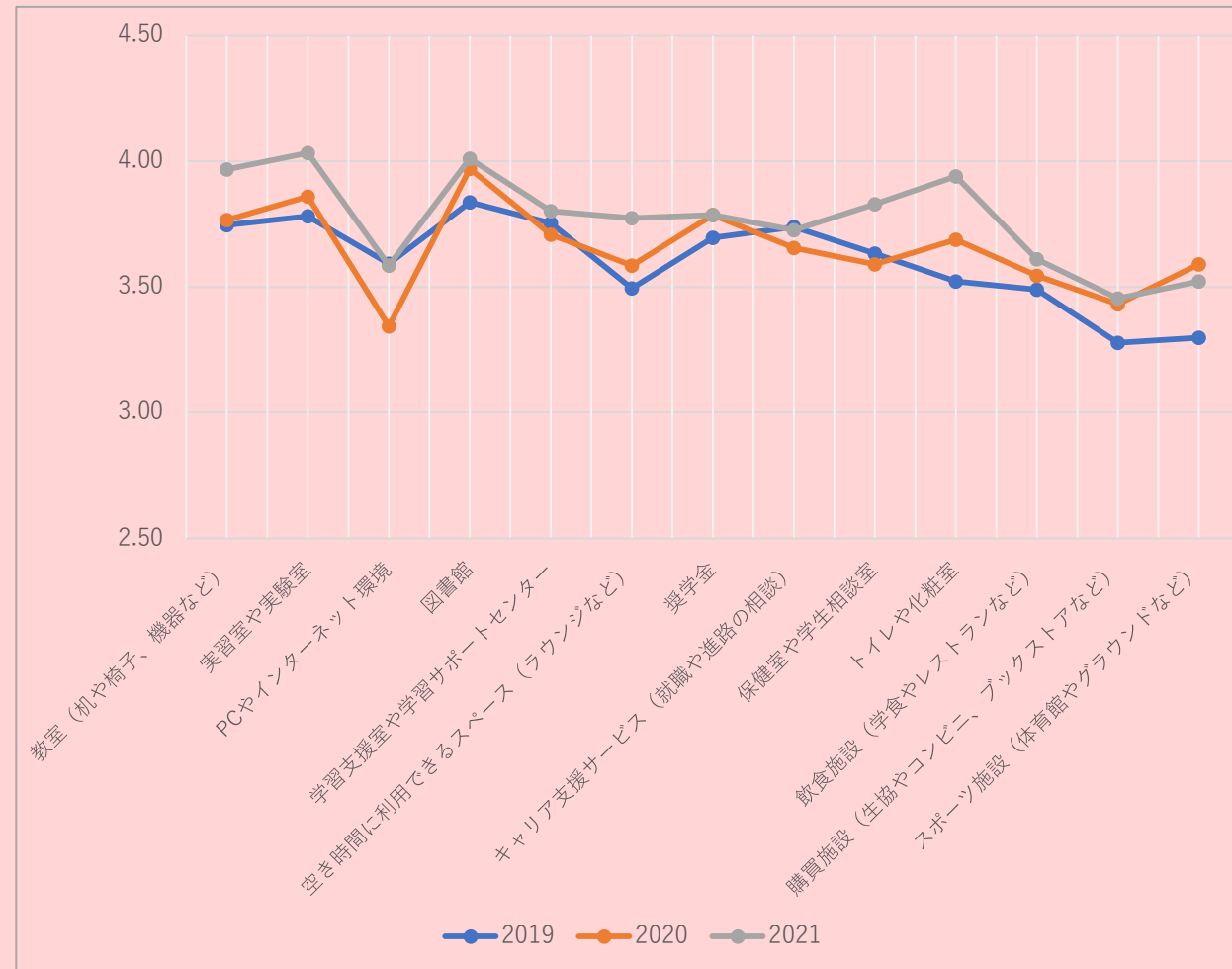
参加校全体

(2019:N=20,849 2020:N=17,032 2021:N=16,575)



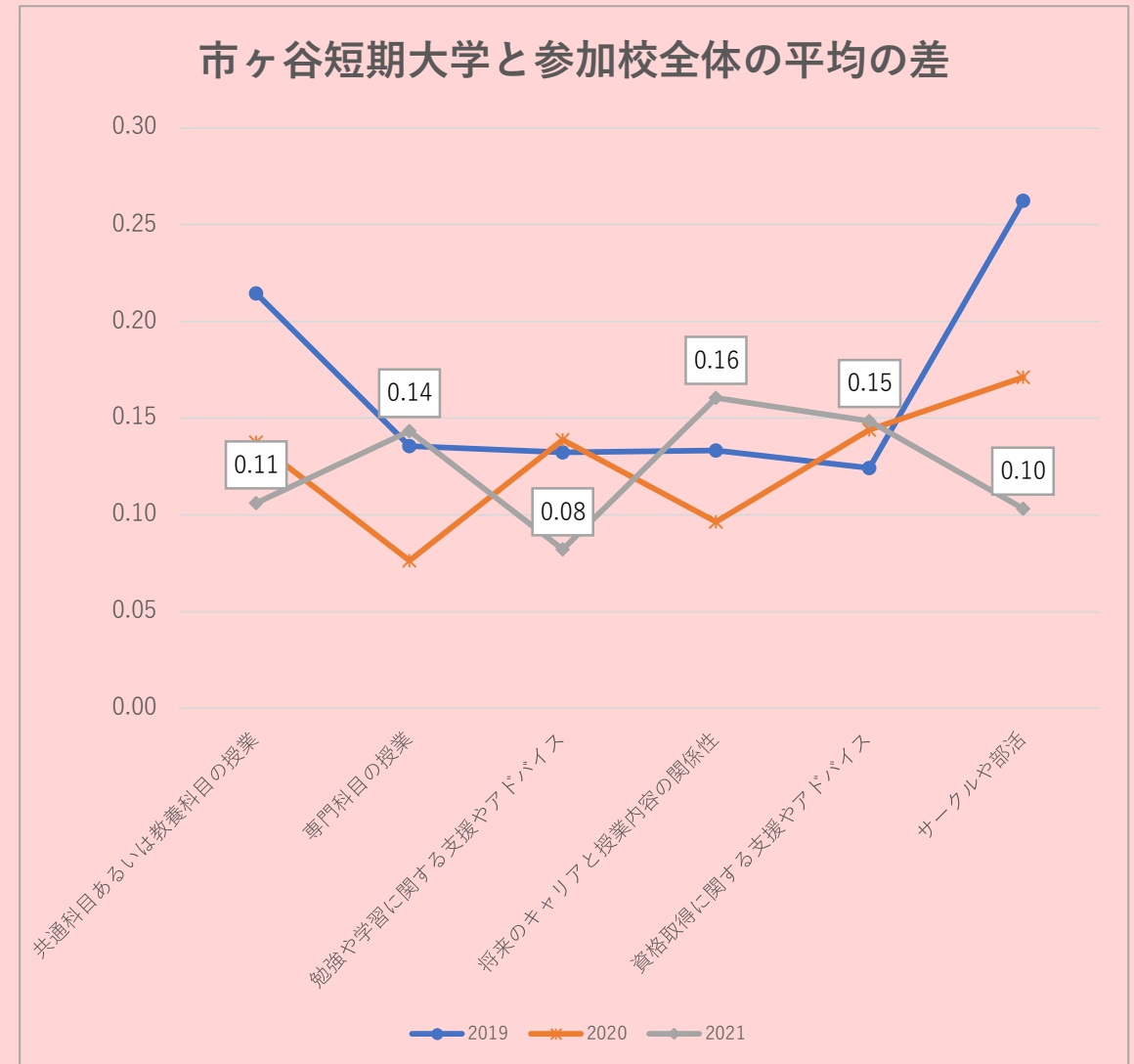
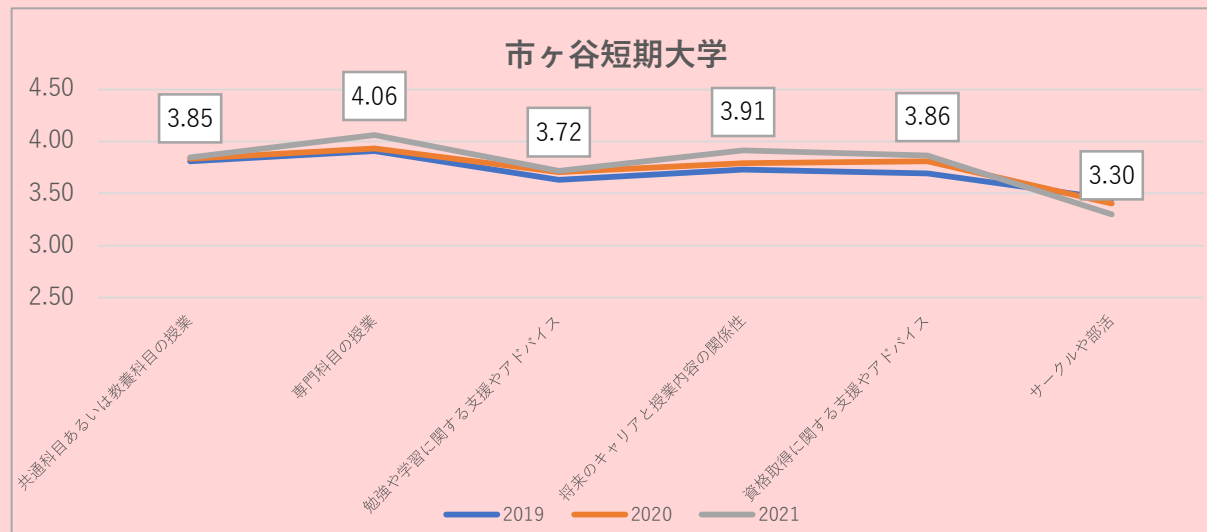
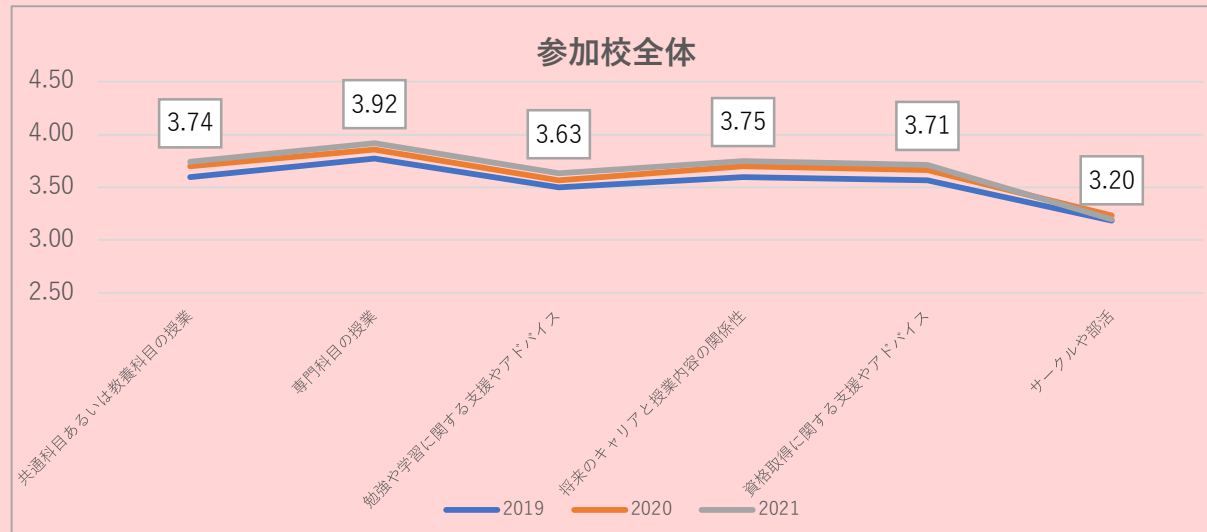
市ヶ谷短期大学

(2019:N=232 2020:N=205 2021:N=213)



Ⅱ：全体と自校（全体）の複数年度比較

問18 満足度（教育）3か年比較



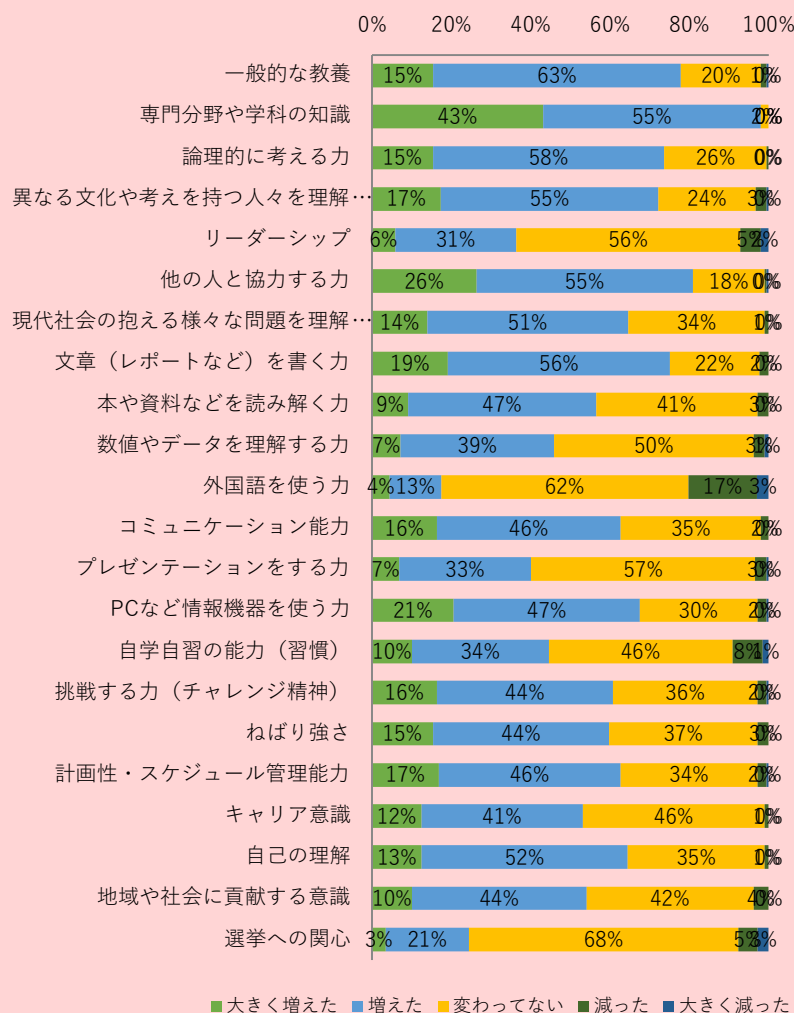
フィードバック内容の可視化②

- 個別の短期大学内での比較する目的は、学年や所属学科・専攻によってどのような回答の特徴があるかを把握するため
- 学内で比較するときの、例えば性別、学年（年齢）、専門分野、入試区分といった属性情報を用いる
 - ※一部はフィードバックファイル内にあるクロス集計全体結果にて比較が可能
- 上記以外では、調査の設問（例えば総合満足度の高い⇔低い）から学生群を作って比較することもできる
 - ※ローデータを使って学生分類の新たに作成する必要がある
- 調査時に学籍（学生）番号を収集している場合は、教務関連データ（成績情報、授業科目履修状況）などを参照して、調査結果を見比べることもできる

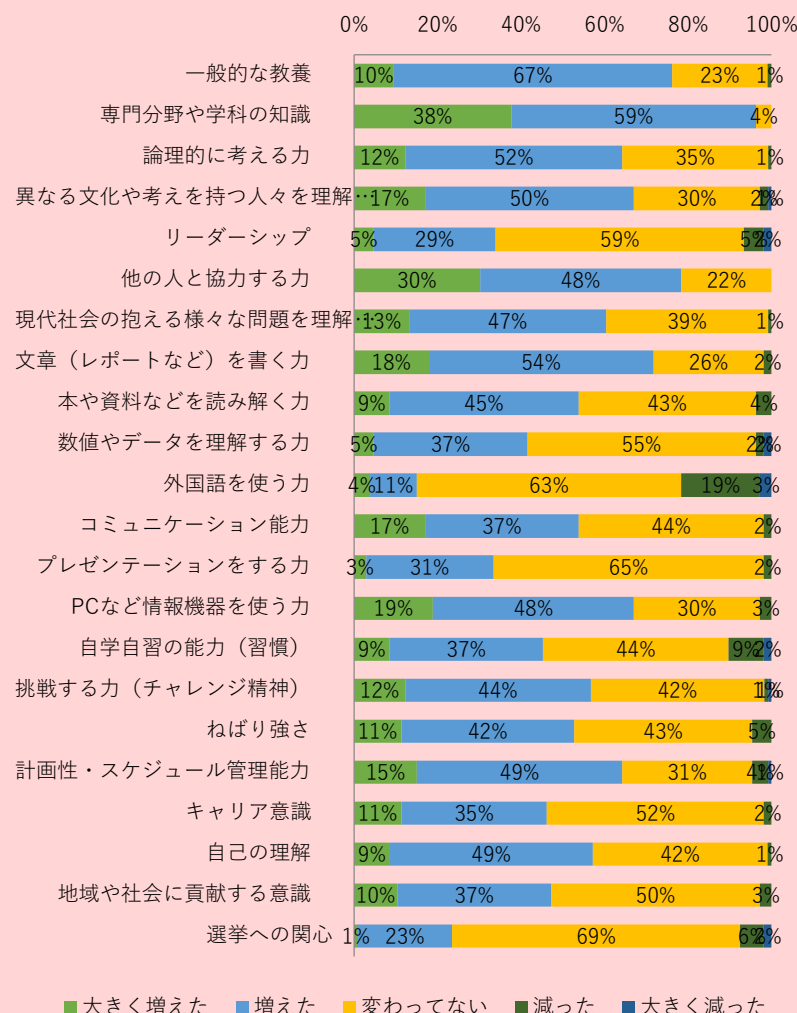
Ⅲ：自校（全体）と【学年別】の単年度比較

2021年調査 問19 入学後の知識・技能の変化（伸長度）

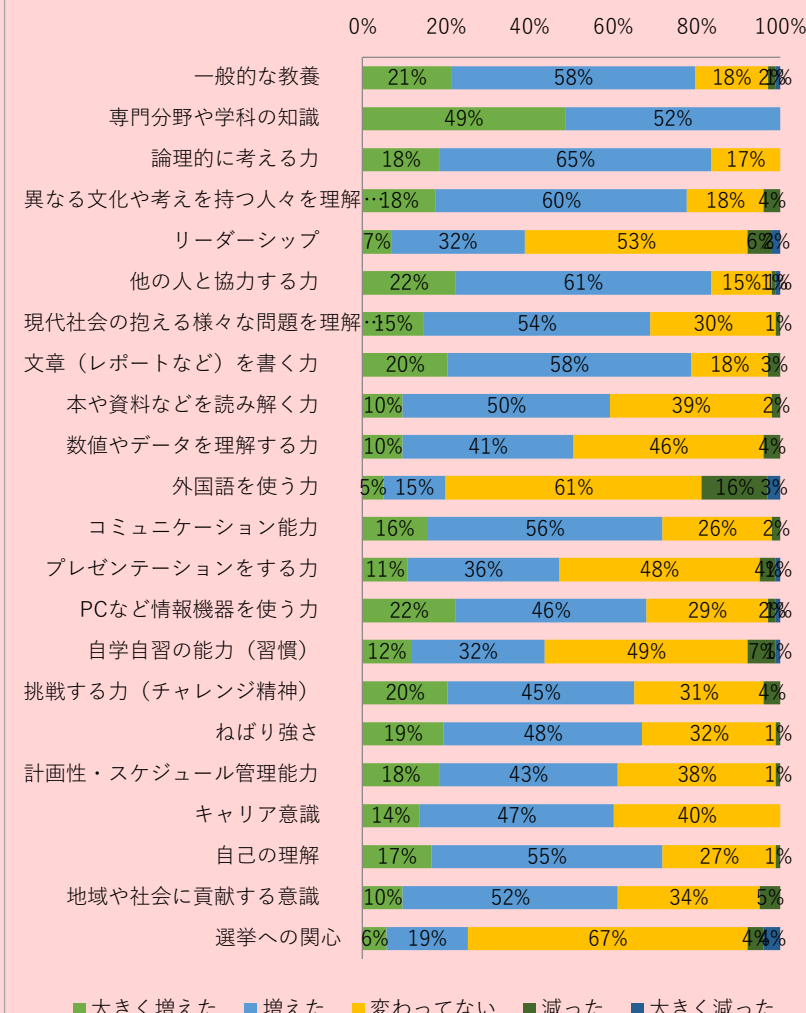
市ヶ谷短期大学全体（N=213）



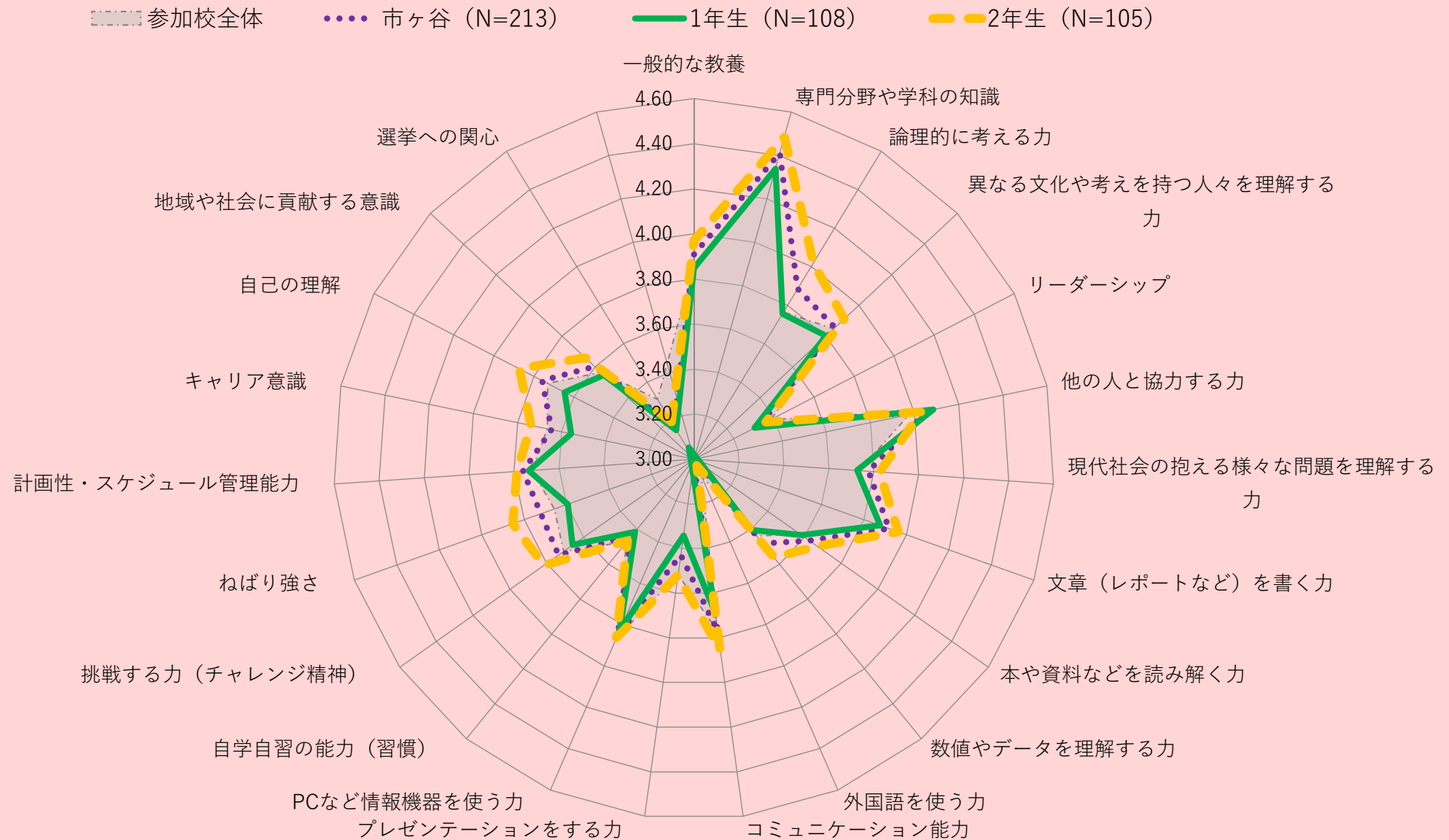
1年生（N=108）



2年生（N=105）



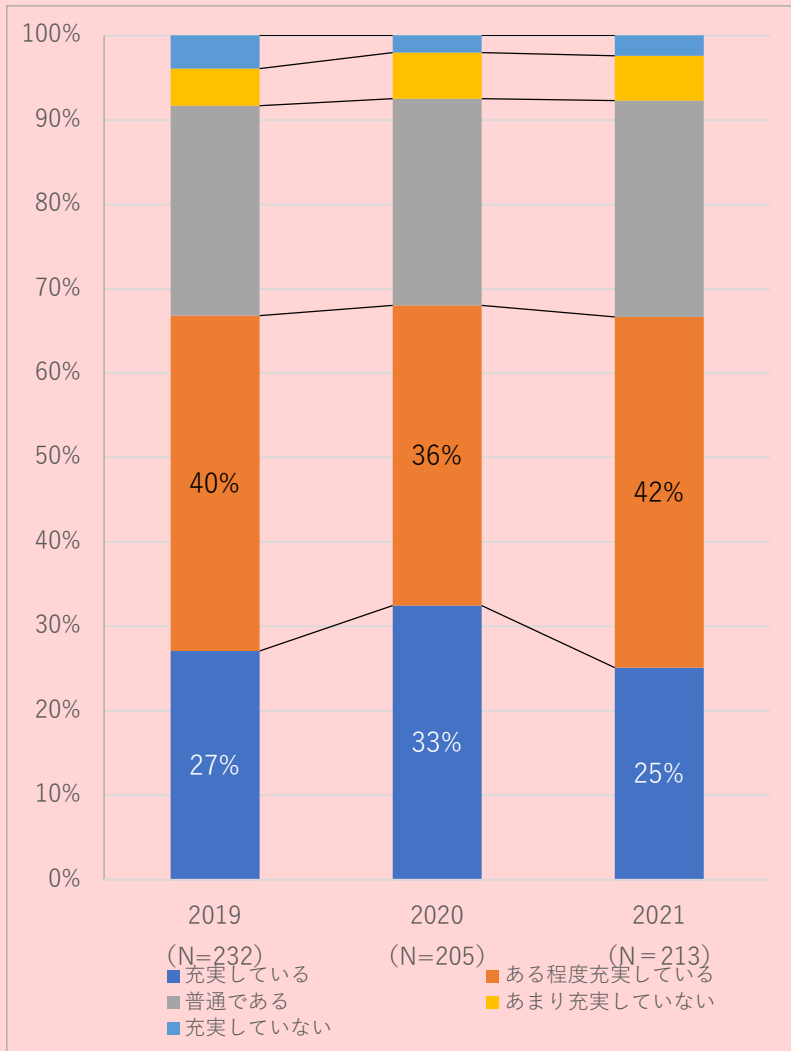
市ヶ谷短期大学における学習成果の学年比較



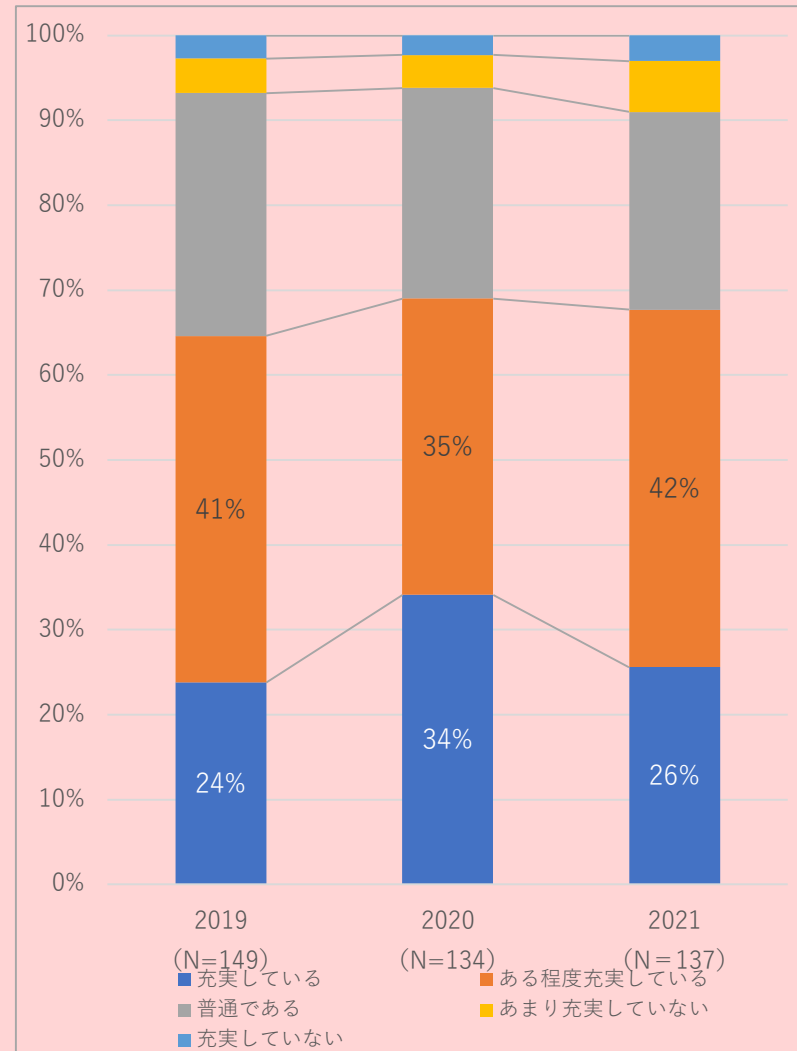
Ⅳ：自校（全体）と【所属学科】別の複数年度比較

問23（学生生活充実度） 3か年比較

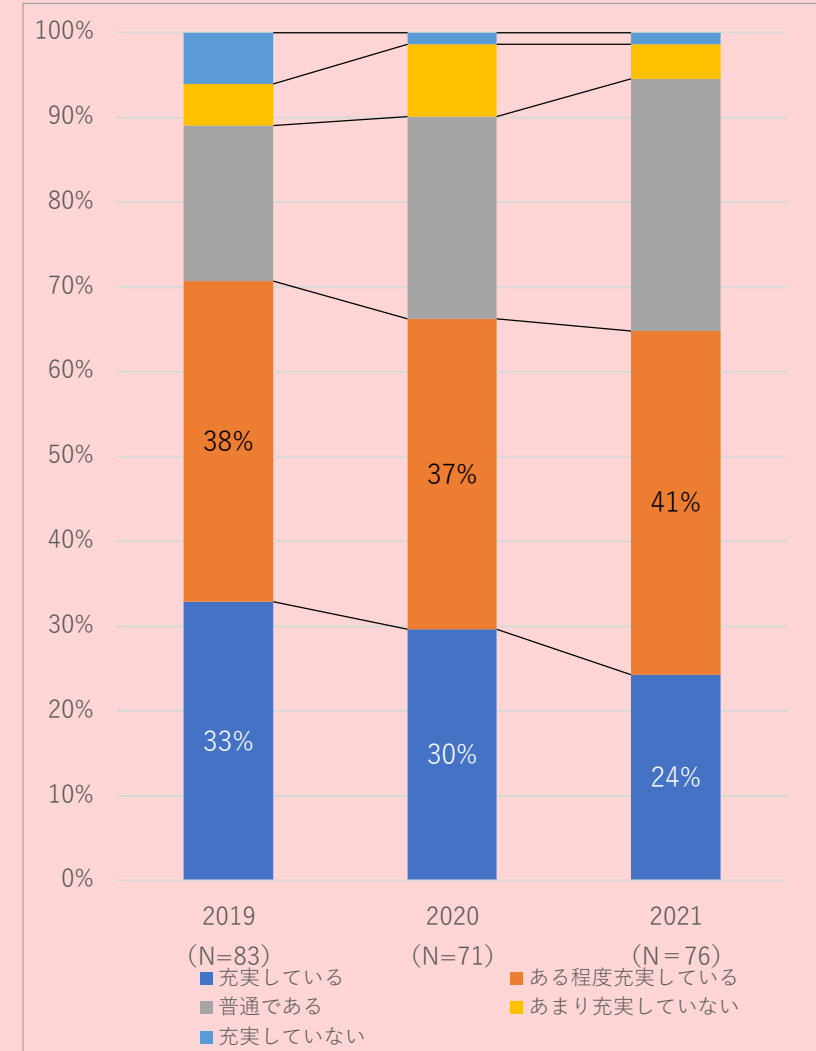
市ヶ谷短期大学全体（N≈215）



子ども教育学科（N≈140）



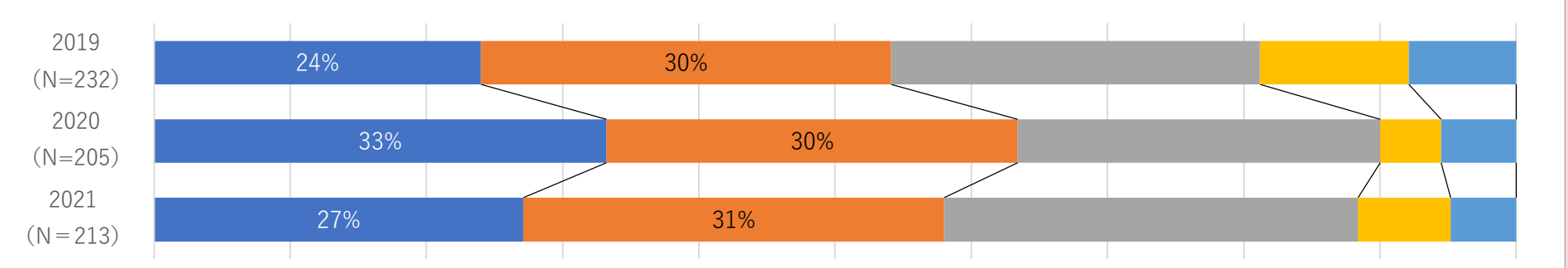
健康栄養学科（N≈75）



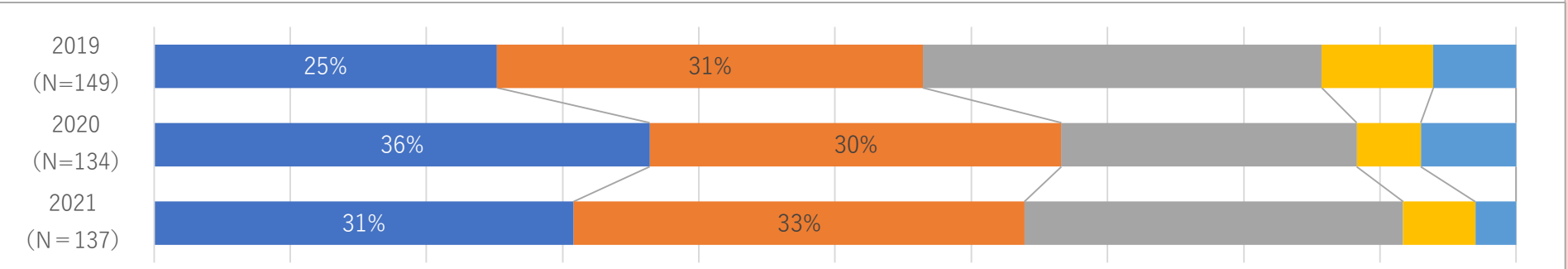
Ⅳ：自校（全体）と【所属学科】別の複数年度比較

問24 （所属短大の他者推奨度） 3か年比較

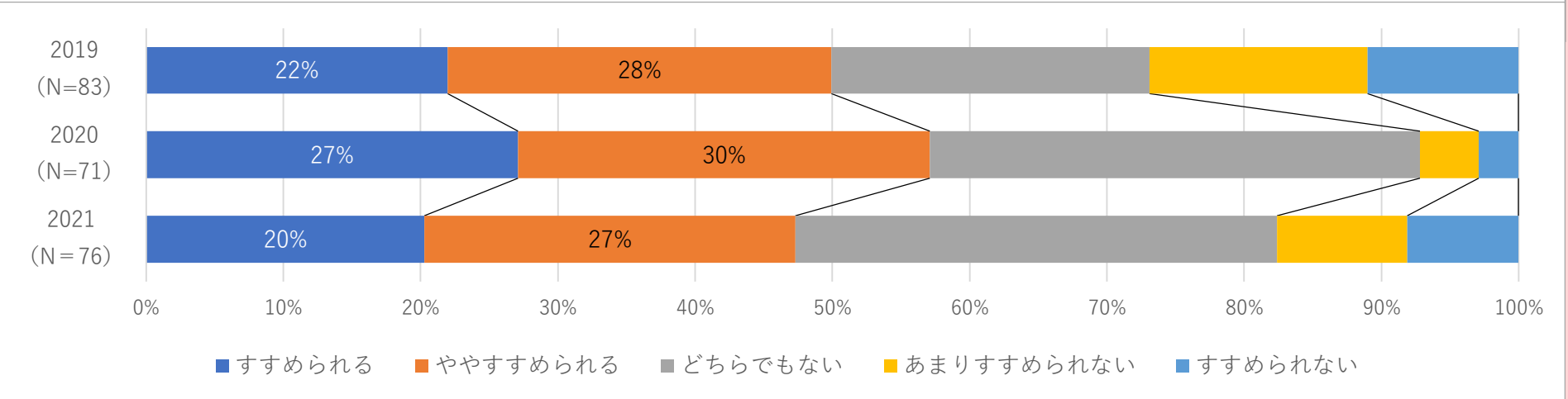
市ヶ谷短期大学全体
(N≈215)



子ども教育学科
(N≈140)



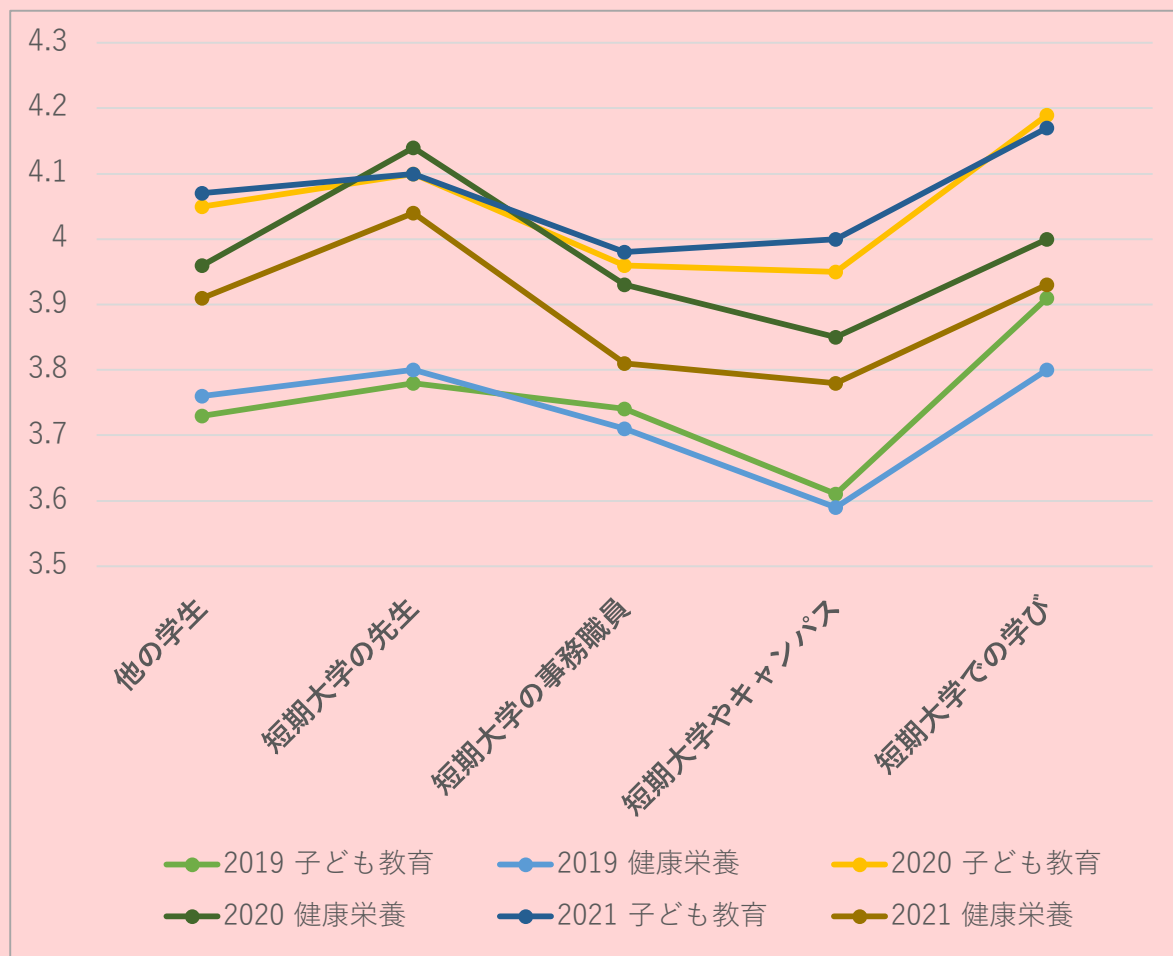
健康栄養学科
(N≈75)



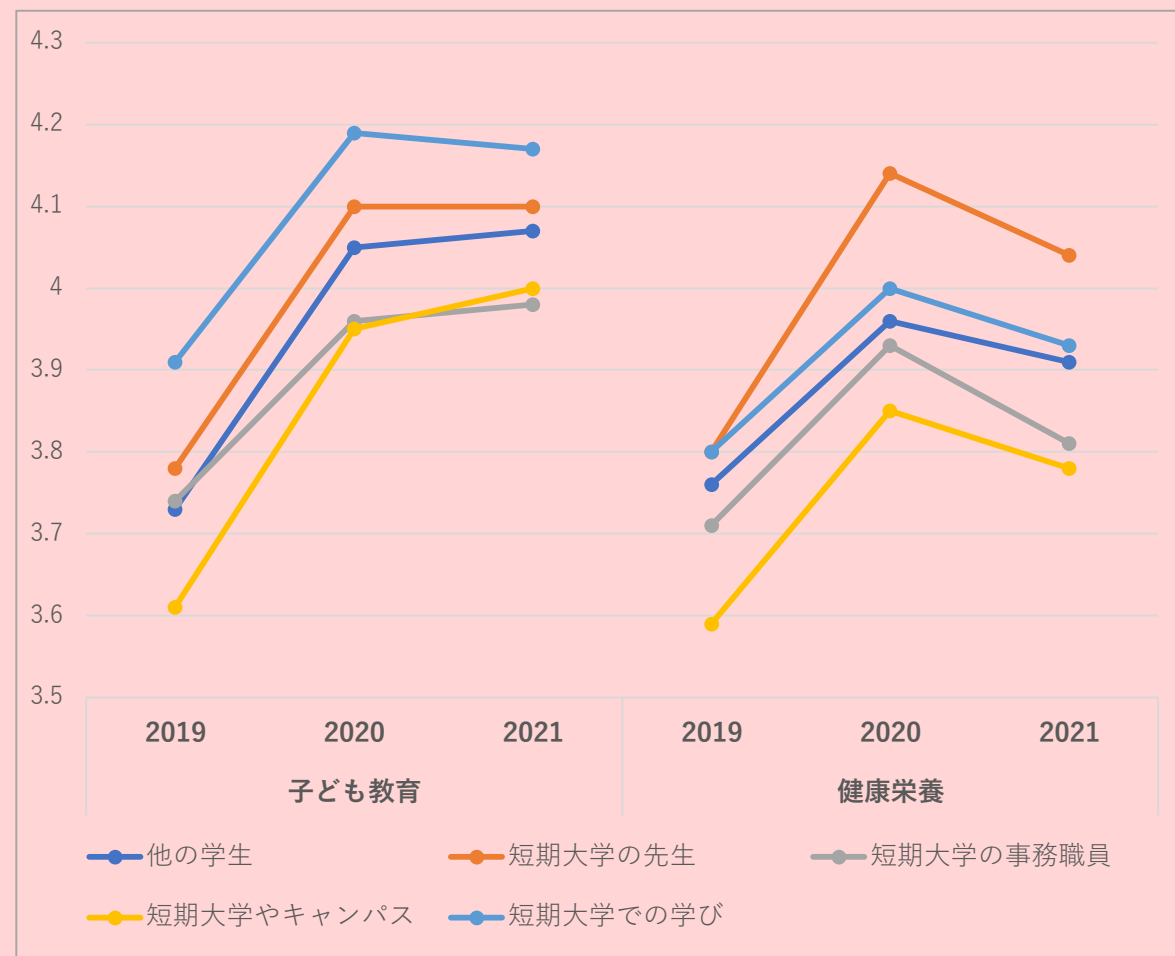
V：自校内の【所属学科】別の複数年度比較

問25（短期大学の総合満足度）3か年比較

【年度×学科の平均値を各項目順に表現】



【各項目の平均値を学科×年度順に表現】



先のスライドの2つのグラフは、使っているデータ（平均値）は同じでも、何を見たいかによってグラフの形や見方が変わってくる

【年度×学科の平均値を各項目順に表現】

		他の学生	短期大学の先生	短期大学の事務職員	短期大学やキャンパス	短期大学での学び
2019	子ども教育	3.73	3.78	3.74	3.61	3.91
2019	健康栄養	3.76	3.8	3.71	3.59	3.8
2020	子ども教育	4.05	4.1	3.96	3.95	4.19
2020	健康栄養	3.96	4.14	3.93	3.85	4
2021	子ども教育	4.07	4.1	3.98	4	4.17
2021	健康栄養	3.91	4.04	3.81	3.78	3.93

【各項目の平均値を学科×年度順に表現】

		他の学生	短期大学の先生	短期大学の事務職員	短期大学やキャンパス	短期大学での学び
子ども教育	2019	3.73	3.78	3.74	3.61	3.91
	2020	4.05	4.1	3.96	3.95	4.19
	2021	4.07	4.1	3.98	4	4.17
健康栄養	2019	3.76	3.8	3.71	3.59	3.8
	2020	3.96	4.14	3.93	3.85	4
	2021	3.91	4.04	3.81	3.78	3.93

可視化するときのポイント

- 見やすい図表を作るにあたって、何を表現したいか＝関心のある設問や項目で特に何を確認したいか目的を持つことが重要
- 今回紹介したグラフは、「参加校全体と個別短大全体」比較や「個別短大内での学年」比較などが中心だが、回答分布や平均値などを単年度／複数年度で表現すれば、自校の学生の状況をさらに把握することができる（例年通りか？それとも何か特徴的な結果が出ているか？）
- 回答割合の大小を見たいなら「帯グラフ」、年度による変化を見たいなら「折れ線グラフ」、複数項目の傾向を一気に把握するなら「レーダーチャート」、設問項目同士の関係性を見たいなら「散布図」など、どれがわかりやすいか色々で作ってみる

3. 調査結果を活用した 教育の内部質保証事例

3-1.

変化していく学習活動の在り方

研究目的

- 「短期大学生調査」が各短期大学の自己点検・自己評価に資する調査になっているかを検討するとともに、短期大学の全体像を示すエビデンスとなりうるかを検証することである
- 効率的・効果的・持続可能な認証評価制度の構築に資する調査の活用方法を開発する

研究方法

対 象：67,429人の短期大学生に対する調査結果
(2015年度～2018年度)

考察項目：主に短期大学における学習経験

分析視点：経年、年度別、分野別
効果量 (*Effect size, Cohen's d*)

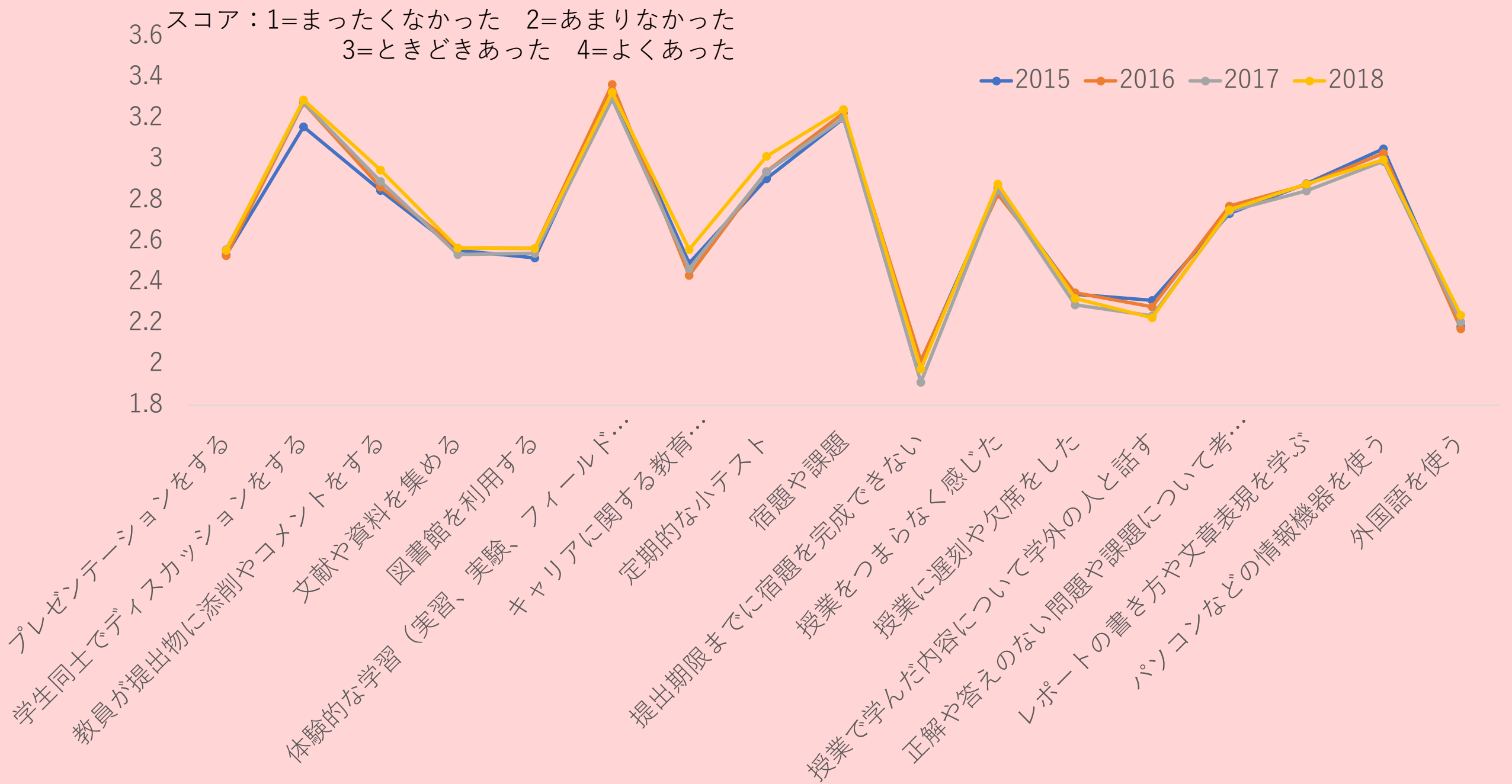


図1：授業における経験に関する項目の経年変化（2014～2018）

表1：授業における経験に関する項目のうち変化がみられた項目（2015～2018）

年度	2015	2016	2017	2018			
回答数	18532	17703	17239	18656	対2015年度比	対2015年度効果量(d)	有意差
授業における経験:キャリアに関する教育の頻度* (キャリア開発、キャリアデザイン、インターンシップなど)	2.56	2.57	2.63	2.67	4.3%増	0.12	**
学生同士でディスカッションをする*	2.98	3.08	3.08	3.13	5.0%増	0.18	**
教員が提出物に添削やコメントをする*	2.80	2.86	2.85	2.87	2.4%増	0.08	**
図書館を利用する*	2.43	2.46	2.41	2.39	1.6%減	0.04	**
定期的な小テスト*	3.02	3.06	3.08	3.13	3.8%増	0.15	**
提出期限までに宿題を完成できない* (逆転項目)	2.01	2.02	1.96	1.96	2.4%減	0.05	**

*1=まったくなかった 2=あまりなかった 3=ときどきあった 4=よくあった

表2(1)：分野別から見た学習経験頻度の年度間比較（2015・2018）

※分野「内」の変化

項目

	YEAR	全体		教育		教養		健康		家政	
		N	avg.	N	avg.	N	avg.	N	avg.	N	avg.
プレゼンテーションをする	2015	18505	2.5	4791	2.50	2318	2.56	4460	2.39	1034	2.71
	2018	18615	2.6	8103	2.56	1978	2.81	4375	2.48	2038	2.66
学生同士でディスカッションをする	2015	18508	3.0	4793	3.12	2317	2.86	4464	2.89	1031	2.73
	2018	18616	3.1	8102	3.29	1979	3.09	4376	3.01	2038	2.92
教員が提出物に添削やコメントをする	2015	18504	2.8	4795	2.83	2317	2.64	4461	2.93	1031	2.69
	2018	18623	2.9	8105	2.95	1979	2.69	4381	2.97	2038	2.71
文献や資料を集める	2015	18500	2.6	4793	2.51	2315	2.55	4459	2.72	1031	2.52
	2018	18610	2.6	8098	2.57	1979	2.54	4375	2.71	2037	2.59
図書館を利用する	2015	18500	2.4	4793	2.37	2317	2.30	4458	2.39	1033	2.23
	2018	18615	2.4	8105	2.57	1978	2.24	4376	2.31	2037	2.28
体験的な学習 (実習、実験、フィールドワーク)	2015	18490	3.2	4788	3.32	2314	2.86	4457	3.55	1032	3.08
	2018	18606	3.2	8100	3.33	1978	2.75	4374	3.51	2037	3.21
キャリアに関する教育 (キャリア開発、キャリアデザイン、インターンシップなど)	2015	18485	2.6	4786	2.46	2317	2.75	4453	2.35	1033	2.79
	2018	18596	2.7	8091	2.56	1977	2.99	4372	2.47	2038	2.95
定期的な小テスト	2015	18483	3.0	4790	2.84	2314	3.01	4455	3.22	1033	3.02
	2018	18609	3.1	8103	3.02	1979	3.13	4372	3.34	2038	3.24

スコア：1=まったくなかった 2=あまりなかった 3=ときどきあった 4=よくあった ■=効果量0.2↑ ■=効果量

表2(2)：分野別から見た学習経験頻度の年度間比較（2015・2018）

項目	※分野「内」の変化		全体		教育		教養		健康		家政	
		YEAR	N	avg.	N	avg.	N	avg.	N	avg.	N	avg.
宿題や課題		2015	18503	3.3	4796	3.12	2318	3.19	4456	3.45	1034	3.27
		2018	18618	3.3	8103	3.25	1976	3.12	4381	3.50	2038	3.19
提出期限までに宿題を完成できない *逆転項目		2015	18507	2.0	4794	1.98	2318	2.08	4459	1.94	1034	2.14
		2018	18609	2.0	8098	1.98	1978	1.93	4380	1.90	2036	2.01
授業をつまらなく感じた *逆転項目		2015	18497	2.9	4795	2.89	2313	2.87	4459	2.85	1034	2.96
		2018	18599	2.8	8098	2.88	1976	2.76	4372	2.79	2035	2.75
授業に遅刻や欠席をした *逆転項目		2015	18494	2.3	4788	2.39	2317	2.51	4457	2.17	1033	2.53
		2018	18619	2.3	8108	2.32	1978	2.50	4378	2.11	2035	2.40
授業で学んだ内容について学外の人と話す		2015	18494	2.3	4793	2.28	2318	2.26	4457	2.28	1033	2.23
		2018	18607	2.2	8096	2.23	1978	2.24	4380	2.25	2035	2.26
正解や答えのない問題や課題について考える		2015	18485	2.6	4792	2.71	2314	2.56	4456	2.53	1031	2.45
		2018	18607	2.6	8098	2.75	1979	2.56	4377	2.56	2033	2.45
レポートの書き方や文章表現を学ぶ		2015	18504	2.9	4796	2.83	2315	2.86	4459	2.82	1033	2.84
		2018	18606	2.9	8102	2.88	1976	2.97	4375	2.88	2033	2.83
パソコンなどの情報機器を使う		2015	18511	3.2	4798	3.11	2317	3.30	4462	3.10	1034	3.37
		2018	18625	3.1	8107	3.00	1979	3.33	4383	3.12	2037	3.17

スコア：1=まったくなかった 2=あまりなかった 3=ときどきあった 4=よくあった ■=効果量0.2↑ ■=効果量

3-2.

分野別の学習活動の特徴

表3(1)：学習経験頻度の分野間比較（2015・2018）

項目	※分野「間」の違い		全体		教育		教養		健康		家政	
		YEAR	N	avg.	N	avg.	N	avg.	N	avg.	N	avg.
プレゼンテーションをする		2015	18505	2.5	4791	2.50	2318	2.56	4460	2.39	1034	2.71
		2018	18615	2.6	8103	2.56	1978	2.81	4375	2.48	2038	2.66
学生同士でディスカッションをする		2015	18508	3.0	4793	3.12	2317	2.86	4464	2.89	1031	2.73
		2018	18616	3.1	8102	3.29	1979	3.09	4376	3.01	2038	2.92
教員が提出物に添削やコメントをする		2015	18504	2.8	4795	2.83	2317	2.64	4461	2.93	1031	2.69
		2018	18623	2.9	8105	2.95	1979	2.69	4381	2.97	2038	2.71
文献や資料を集める		2015	18500	2.6	4793	2.51	2315	2.55	4459	2.72	1031	2.52
		2018	18610	2.6	8098	2.57	1979	2.54	4375	2.71	2037	2.59
図書館を利用する		2015	18500	2.4	4793	2.37	2317	2.30	4458	2.39	1033	2.23
		2018	18615	2.4	8105	2.57	1978	2.24	4376	2.31	2037	2.28
体験的な学習 (実習、実験、フィールドワーク)		2015	18490	3.2	4788	3.32	2314	2.86	4457	3.55	1032	3.08
		2018	18606	3.2	8100	3.33	1978	2.75	4374	3.51	2037	3.21
キャリアに関する教育 (キャリア開発、キャリアデザイン、インターンシップなど)		2015	18485	2.6	4786	2.46	2317	2.75	4453	2.35	1033	2.79
		2018	18596	2.7	8091	2.56	1977	2.99	4372	2.47	2038	2.95
定期的な小テスト		2015	18483	3.0	4790	2.84	2314	3.01	4455	3.22	1033	3.02
		2018	18609	3.1	8103	3.02	1979	3.13	4372	3.34	2038	3.24

スコア：1=まったくなかった 2=あまりなかった 3=ときどきあった 4=よくあった

表3(2)：学習経験頻度の分野間比較（2015・2018）

項目	※分野「間」の違い		全体		教育		教養		健康		家政	
		YEAR	N	avg.	N	avg.	N	avg.	N	avg.	N	avg.
宿題や課題		2015	18503	3.3	4796	3.12	2318	3.19	4456	3.45	1034	3.27
		2018	18618	3.3	8103	3.25	1976	3.12	4381	3.50	2038	3.19
提出期限までに宿題を完成できない *逆転項目		2015	18507	2.0	4794	1.98	2318	2.08	4459	1.94	1034	2.14
		2018	18609	2.0	8098	1.98	1978	1.93	4380	1.90	2036	2.01
授業をつまらなく感じた *逆転項目		2015	18497	2.9	4795	2.89	2313	2.87	4459	2.85	1034	2.96
		2018	18599	2.8	8098	2.88	1976	2.76	4372	2.79	2035	2.75
授業に遅刻や欠席をした *逆転項目		2015	18494	2.3	4788	2.39	2317	2.51	4457	2.17	1033	2.53
		2018	18619	2.3	8108	2.32	1978	2.50	4378	2.11	2035	2.40
授業で学んだ内容について学外の人と話す		2015	18494	2.3	4793	2.28	2318	2.26	4457	2.28	1033	2.23
		2018	18607	2.2	8096	2.23	1978	2.24	4380	2.25	2035	2.26
正解や答えのない問題や課題について考える		2015	18485	2.6	4792	2.71	2314	2.56	4456	2.53	1031	2.45
		2018	18607	2.6	8098	2.75	1979	2.56	4377	2.56	2033	2.45
レポートの書き方や文章表現を学ぶ		2015	18504	2.9	4796	2.83	2315	2.86	4459	2.82	1033	2.84
		2018	18606	2.9	8102	2.88	1976	2.97	4375	2.88	2033	2.83
パソコンなどの情報機器を使う		2015	18511	3.2	4798	3.11	2317	3.30	4462	3.10	1034	3.37
		2018	18625	3.1	8107	3.00	1979	3.33	4383	3.12	2037	3.17

スコア：1=まったくなかった 2=あまりなかった 3=ときどきあった 4=よくあった

表4：学習成果の分野間比較（教育vs健康）

大分類	分野	N	平均値	標準偏差	効果量
Q19-7 知識・能力の変化:現代社会の抱える様々な問題を理解する力	教育系	31661	3.67	0.71	0.24 効果量小
	健康系	17805	3.50	0.70	
Q19-10 知識・能力の変化:数値やデータを理解する力	教育系	31659	3.25	0.69	0.29 効果量小
	健康系	17803	3.45	0.71	
Q19-15 知識・能力の変化:自学自習の能力(習慣)	教育系	31656	3.27	0.79	0.30 効果量小
	健康系	17802	3.51	0.81	

スコア：1=大きく減った 2=減った 3=変わっていない 4=増えた 5=大きく増えた

3－3.

A短期大学を事例とした
短期大学生調査の使い方

使用したデータ：

- 2014～18年度「短期大学生調査（Tandaiseichosa）」 約84,000件
- A短期大学の調査結果：約1,400件（教育系、教養・総合系、健康系）

分析手法：

- 1) 学修行動や教育経験の頻度に関する質問（Q.11）の経年分析
- 2) A短期大学関係者による分析結果の考察

	年度 YEAR	数 N	平均（標準偏差） <i>mean (S.D.)</i>	効果量 <i>d</i>	信頼区間(95%) 95% CI	有意水準 <i>p</i>
プレゼンテーションをする	2014	286	3.10 (0.74)	0.31	[0.11, 0.39]	**
	2018	252	2.85 (0.87)			
学生同士でディスカッションをする	2014	286	3.54 (0.61)	0.13	[-0.18, 0.02]	
	2018	252	3.62 (0.61)			
教員が提出物に添削やコメントをする	2014	286	3.08 (0.78)	0.1	[-0.20, 0.05]	
	2018	251	3.16 (0.76)			
文献や資料を集める	2014	286	2.81 (0.79)	0.01	[-0.14, 0.12]	
	2018	252	2.81 (0.79)			
図書館を利用する	2014	286	2.66 (0.84)	0.12	[-0.04, 0.24]	
	2018	252	2.56 (0.84)			
体験的な学習 (実習、実験、フィールドワーク)	2014	286	3.25 (0.84)	0.05	[-0.18, 0.10]	
	2018	251	3.29 (0.82)			
①キャリアに関する教育 (キャリア開発、キャリアデザイン、インターンシップなど)	2014	285	3.07 (0.93)	0.16	[-0.29, 0.00]	*
	2018	252	3.22 (0.81)			
定期的な小テスト	2014	286	3.06 (0.70)	0.37	[-0.38, -0.14]	**
	2018	252	3.33 (0.71)			
宿題や課題	2014	286	3.20 (0.68)	0.08	[-0.17, 0.06]	
	2018	252	3.26 (0.72)			
提出期限までに宿題を完成できない	2014	286	1.84 (0.84)	0.12	[-0.04, 0.23]	
	2018	251	1.74 (0.81)			
授業をつまらなく感じた	2014	286	2.74 (0.74)	0.04	[-0.15, 0.10]	
	2018	250	2.77 (0.77)			
授業に遅刻や欠席をした	2014	285	2.21 (0.90)	0.01	[-0.14, 0.16]	
	2018	252	2.20 (0.92)			
授業で学んだ内容について学外の人と話す	2014	286	2.34 (0.85)	0.08	[-0.22, 0.08]	
	2018	252	2.41 (0.97)			
②正解や答えのない問題や課題について考える	2014	286	3.06 (0.86)	0.17	[-0.28, 0.00]	*
	2018	252	3.19 (0.80)			
レポートの書き方や文章表現を学ぶ	2014	286	2.99 (0.79)	0.43	[-0.44, -0.19]	**
	2018	252	3.31 (0.67)			
パソコンなどの情報機器を使う	2014	286	3.54 (0.56)	0.19	[0.01, 0.23]	*
	2018	252	3.42 (0.69)			
外国語を使う	2014	286	2.41 (0.93)	0.08	[-0.87, 0.24]	
	2018	251	2.33 (1.00)			

**p=<0.01 *p=<0.05

2014年度と2018年度の違い

①キャリアに関する教育

- ・2014年度「キャリアデザインA・B」のみの開講
- ・2018年度から「キャリアデザインⅠ～Ⅳ」を開講し、Ⅰは日本語力、Ⅱは社会人基礎力、Ⅲは各学生の進路に合わせた学び、Ⅳは各学生の進捗に合わせた学びを提供
- ・「インターンシップ（前期）」1年次 選択科目

▶キャリア教育の充実化

②正解や答えのない問題や課題について考える

- ・共通教育「地元学（*仮称）（通年）1年・2年選択2単位」地元学（*仮称）では、災害地等の訪問を通じ、地域振興をはじめ、地元の産業や暮らしの現状と課題について学ぶ。学生自らが主体的にかかわりを創造していく科目であり、A短期大学における様々なアクティブラーニングやPBL型授業のベースにもなっている
- ・全ての学科において、通常の実習に加え、それぞれの専門分野に根差したPBL型授業を導入し、その多くが必修扱いとなっている

▶PBL型授業の機会の多さ

	年度 YEAR	数 N	平均（標準偏差） <i>mean (S.D.)</i>	効果量 <i>d</i>	信頼区間(95%) 95% CI	有意水準 <i>p</i>
④プレゼンテーションをする	2014	286	3.10 (0.74)	0.31	[0.11, 0.39]	**
	2018	252	2.85 (0.87)			
学生同士でディスカッションをする	2014	286	3.54 (0.61)	0.13	[-0.18, 0.02]	
	2018	252	3.62 (0.61)			
教員が提出物に添削やコメントをする	2014	286	3.08 (0.78)	0.1	[-0.20, 0.05]	
	2018	251	3.16 (0.76)			
文献や資料を集める	2014	286	2.81 (0.79)	0.01	[-0.14, 0.12]	
	2018	252	2.81 (0.79)			
図書館を利用する	2014	286	2.66 (0.84)	0.12	[-0.04, 0.24]	
	2018	252	2.56 (0.84)			
体験的な学習 (実習、実験、フィールドワーク)	2014	286	3.25 (0.84)	0.05	[-0.18, 0.10]	
	2018	251	3.29 (0.82)			
キャリアに関する教育 (キャリア開発、キャリアデザイン、インターンシップなど)	2014	285	3.07 (0.93)	0.16	[-0.29, 0.00]	*
	2018	252	3.22 (0.81)			
定期的な小テスト	2014	286	3.06 (0.70)	0.37	[-0.38, -0.14]	**
	2018	252	3.33 (0.71)			
宿題や課題	2014	286	3.20 (0.68)	0.08	[-0.17, 0.06]	
	2018	252	3.26 (0.72)			
提出期限までに宿題を完成できない	2014	286	1.84 (0.84)	0.12	[-0.04, 0.23]	
	2018	251	1.74 (0.81)			
授業をつまらなく感じた	2014	286	2.74 (0.74)	0.04	[-0.15, 0.10]	
	2018	250	2.77 (0.77)			
授業に遅刻や欠席をした	2014	285	2.21 (0.90)	0.01	[-0.14, 0.16]	
	2018	252	2.20 (0.92)			
授業で学んだ内容について学外の人と話す	2014	286	2.34 (0.85)	0.08	[-0.22, 0.08]	
	2018	252	2.41 (0.97)			
正解や答えのない問題や課題について考える	2014	286	3.06 (0.86)	0.17	[-0.28, 0.00]	*
	2018	252	3.19 (0.80)			
③レポートの書き方や文章表現を学ぶ	2014	286	2.99 (0.79)	0.43	[-0.44, -0.19]	**
	2018	252	3.31 (0.67)			
パソコンなどの情報機器を使う	2014	286	3.54 (0.56)	0.19	[0.01, 0.23]	*
	2018	252	3.42 (0.69)			
外国語を使う	2014	286	2.41 (0.93)	0.08	[-0.87, 0.24]	
	2018	251	2.33 (1.00)			

**p=<0.01 *p=<0.05

④プレゼンテーションをする

- 教育経験の実施頻度が落ちている要因の「見える化」は出来ていない
- プレゼンテーションをする機会が多い教養・総合系の学生数の割合の増減は、2014年度44%、2018年度46%とほぼ変化はなかった
- 想定できることとしては、教員の人事異動に伴う科目担当者の交代や新任者の教授法の違いによることが考えられる

③レポートの書き方や文章表現を学ぶ

- 初年次教育において「ベーシックスキルズ」を履修。日本語検定試験4級以上の合格も含まれる
- 「特別研究（卒業研究・論文作成）」2年 通年全学必修 4単位
- 「結果レポート制度」A 短期大学では、欠席により学習が滞ることを補うために、半期で授業時間数の5分の1以上欠席した学生、レポートの提出が義務づけられている

▶卒論をはじめとする「書く」機会の多さ

	年度 YEAR	数 N	平均（標準偏差） <i>mean (S.D.)</i>	効果量 <i>d</i>	信頼区間(95%) 95% CI	有意水準 <i>p</i>
プレゼンテーションをする	2014	286	3.10 (0.74)	0.31	[0.11, 0.39]	**
	2018	252	2.85 (0.87)			
学生同士でディスカッションをする	2014	286	3.54 (0.61)	0.13	[-0.18, 0.02]	
	2018	252	3.62 (0.61)			
教員が提出物に添削やコメントをする	2014	286	3.08 (0.78)	0.1	[-0.20, 0.05]	
	2018	251	3.16 (0.76)			
文献や資料を集める	2014	286	2.81 (0.79)	0.01	[-0.14, 0.12]	
	2018	252	2.81 (0.79)			
図書館を利用する	2014	286	2.66 (0.84)	0.12	[-0.04, 0.24]	
	2018	252	2.56 (0.84)			
体験的な学習 (実習、実験、フィールドワーク)	2014	286	3.25 (0.84)	0.05	[-0.18, 0.10]	
	2018	251	3.29 (0.82)			
キャリアに関する教育 (キャリア開発、キャリアデザイン、インターンシップなど)	2014	285	3.07 (0.93)	0.16	[-0.29, 0.00]	*
	2018	252	3.22 (0.81)			
定期的な小テスト	2014	286	3.06 (0.70)	0.37	[-0.38, -0.14]	**
	2018	252	3.33 (0.71)			
宿題や課題	2014	286	3.20 (0.68)	0.08	[-0.17, 0.06]	
	2018	252	3.26 (0.72)			
提出期限までに宿題を完成できない	2014	286	1.84 (0.84)	0.12	[-0.04, 0.23]	
	2018	251	1.74 (0.81)			
授業をつまらなく感じた	2014	286	2.74 (0.74)	0.04	[-0.15, 0.10]	
	2018	250	2.77 (0.77)			
授業に遅刻や欠席をした	2014	285	2.21 (0.90)	0.01	[-0.14, 0.16]	
	2018	252	2.20 (0.92)			
授業で学んだ内容について学外の人と話す	2014	286	2.34 (0.85)	0.08	[-0.22, 0.08]	
	2018	252	2.41 (0.97)			
正解や答えのない問題や課題について考える	2014	286	3.06 (0.86)	0.17	[-0.28, 0.00]	*
	2018	252	3.19 (0.80)			
レポートの書き方や文章表現を学ぶ	2014	286	2.99 (0.79)	0.43	[-0.44, -0.19]	**
	2018	252	3.31 (0.67)			
パソコンなどの情報機器を使う	2014	286	3.54 (0.56)	0.19	[0.01, 0.23]	*
	2018	252	3.42 (0.69)			
外国語を使う	2014	286	2.41 (0.93)	0.08	[-0.87, 0.24]	
	2018	251	2.33 (1.00)			

**p=<0.01 *p=<0.05

⑤パソコンなどの情報機器を使う

- 共通教育「情報演習ⅠB」の必修科目から選択科目への変更により減少
- 2014年度「情報演習ⅠA（前期）」「情報演習ⅠB（後期）」1年次必修（計4単位）、2016年度「情報演習ⅠB（後期）」を選択科目へと変更
- 2018年度「情報演習ⅠA（前期）」履修者178名
- 2018年度「情報演習ⅠB（後期）」履修者105名 △73名減

卒業生調査から得られた知見：

- 卒業生調査2015年度
5段階評価の4と5 = 37.7%（2科目必修）
- 卒業生調査2018年度
5段階評価の4と5 = 41.7%（1科目必修）

▶科目数の削減 = 質の低下 とは限らず、さらに経営面から見たメリットも生まれた

小括

- 短期大学生調査を用いた全国及び自短大内での比較から、その特徴や変化を把握することができる
- 「④パソコンなどの情報機器を使う」から示唆されるように、数値が下がる＝悪い とは限らない
- 短期大学生調査の分析をしている研究者らでも、個別短大の考察においては表層的な部分しか示すことが出来ない

▶自己点検・自己評価の重要性

- 内部質保証の実質化においては、短期大学生調査のような量的データの利用に加え、短大内を理解している者の質的考察が必要
 - ▶質保証の責任を担う学内者の考察＋学外者による客観的な考察＝内部質保証システムの構築

共通教育の成果

・初年次教育「ベーシックスキルズ」から卒業研究科目「特別研究」の連続性

・卒業要件として20単位↑の共通科目

・FD、新規採用教員、学生層の変化

地域課題解決のためのPBL型授業

・積極的にPBL型授業を実施(COC+)地域での調査や企業との共同開発も数多く展開

・「ふりかえり」や「プレゼン」を評価するためのルーブリック導入により、学生が評価（数値）に関心を示すようになった

	年度 YEAR	数 N	平均（標準偏差） mean (S.D.)	平均値の差 2018-2014	効果量 d	信頼区間(95%) 95% CI	有意水準 p
一般的な教養	2014	286	4.09 (0.53)	-0.06	0.10	[-0.40, 0.16]	
	2018	252	4.03 (0.67)				
専門分野や学科の知識	2014	286	4.32 (0.61)	-0.05	0.08	[-0.56, 0.16]	
	2018	252	4.27 (0.66)				
論理的に考える力	2014	286	3.74 (0.60)	0.14	0.20	[-0.24, -0.21]	*
	2018	251	3.88 (0.73)				
異なる文化や考えを持つ人々を理解する力	2014	286	4.00 (0.69)	-0.01	0.01	[-0.11, 0.13]	
	2018	252	3.99 (0.78)				
リーダーシップ	2014	285	3.45 (0.71)	0.09	0.12	[-0.22, 0.36]	
	2018	252	3.54 (0.81)				
他の人と協力する力	2014	286	4.09 (0.72)	0.06	0.08	[-0.17, 0.06]	
	2018	252	4.15 (0.70)				
現代社会の抱える様々な問題を理解する力	2014	286	3.89 (0.62)	0.01	0.01	[-0.12, 0.10]	
	2018	251	3.90 (0.71)				
文章（レポートなど）を書く力	2014	286	3.88 (0.68)	0.08	0.11	[-0.19, 0.39]	
	2018	251	3.96 (0.68)				
本や資料などを読み解く力	2014	286	3.58 (0.66)	0.09	0.13	[-0.21, 0.31]	
	2018	252	3.67 (0.77)				
数値やデータを理解する力	2014	286	3.33 (0.61)	0.15	0.22	[-0.26, 0.03]	*
	2018	252	3.48 (0.77)				
外国語を使う力	2014	286	3.07 (0.81)	0.12	0.14	[-0.27, 0.02]	
	2018	252	3.20 (0.96)				
コミュニケーション能力	2014	286	3.94 (0.80)	0.04	0.05	[-0.17, 0.09]	
	2018	252	3.98 (0.77)				
プレゼンテーションをする力	2014	286	3.78 (0.78)	-0.07	0.09	[-0.06, 0.20]	
	2018	251	3.71 (0.82)				
PC など情報機器を使う力	2014	286	3.93 (0.72)	0.01	0.01	[-0.14, 0.11]	
	2018	252	3.94 (0.79)				
自学自習の能力	2014	286	3.31 (0.80)	0.02	0.02	[-0.15, 0.12]	
	2018	252	3.33 (0.85)				
挑戦する力	2014	286	3.81 (0.71)	0.07	0.09	[-0.19, 0.05]	
	2018	252	3.88 (0.80)				
ねばり強さ	2014	286	3.64 (0.75)	0.06	0.08	[-0.18, 0.07]	
	2018	252	3.70 (0.77)				
計画性・スケジュール管理能力	2014	286	3.90 (0.74)	-0.05	0.07	[-0.07, 0.17]	
	2018	251	3.85 (0.75)				
キャリア意識	2014	286	3.73 (0.65)	0.14	0.20	[-0.25, 0.02]	*
※次頁にて考察	2018	252	3.87 (0.73)				
自己の理解	2014	286	3.88 (0.66)	0.10	0.13	[-0.21, 0.02]	
	2018	252	3.98 (0.76)				

	年度	数	平均（標準偏差）	平均値の差	効果量	信頼区間(95%)	有意水準
	YEAR	N	mean (S.D.)	2018-2014	d	95% CI	p
一般的な教養	2014	286	4.09 (0.53)	-0.06	0.10	[-0.40, 0.16]	
	2018	252	4.03 (0.67)				
専門分野や学科の	2014	286	4.32 (0.61)	-0.05	0.08	[-0.56, 0.16]	
	2018	252	4.27 (0.66)				
平均値の差が比較的大きかった「一般的な教養」については、「キャリアデザインⅠ～Ⅳ」の増加に伴い関連履修科目が減少したことによるかもしれないという考察があった。過去年度から-0.06（有意差なし）							
他の人と協力する力	2018	252	3.54 (0.81)	0.06	0.08	[-0.17, 0.06]	
	2014	286	4.09 (0.72)				
現代社会の抱える様々な問題を理解する力	2018	252	4.15 (0.70)	0.01	0.01	[-0.12, 0.10]	
	2014	286	3.89 (0.62)				
文章（レポートなど）を書く力	2018	251	3.90 (0.71)	0.08	0.11	[-0.19, 0.39]	
	2014	286	3.88 (0.68)				
	2018	251	3.96 (0.68)				
「プレゼンテーションをする力」については、パワーポイントを用いたプレゼンテーションの実施は減り、かわりにワールドカフェ形式や小集団の発表が増えたため、プレゼンテーションをしていると学生が認識していないのではないかというコメントもあった。過去年度から-0.07（有意差なし）							
プレゼンテーションをする力	2018	252	3.98 (0.77)	-0.07	0.09	[-0.06, 0.20]	
	2014	286	3.78 (0.78)				
PC など情報機器を使う力	2018	251	3.71 (0.82)	0.01	0.01	[-0.14, 0.11]	
	2014	286	3.93 (0.72)				
自学自習の能力	2018	252	3.94 (0.79)	0.02	0.02	[-0.15, 0.12]	
	2014	286	3.31 (0.80)				
挑戦する力	2018	252	3.33 (0.85)	0.07	0.09	[-0.19, 0.05]	
	2014	286	3.81 (0.71)				
ねばり強さ	2018	252	3.88 (0.80)	0.06	0.08	[-0.18, 0.07]	
	2014	286	3.64 (0.75)				
計画性・スケジュール管理能力	2018	252	3.70 (0.77)	-0.05	0.07	[-0.07, 0.17]	
	2014	286	3.90 (0.74)				
キャリア意識	2018	251	3.85 (0.75)	0.14	0.20	[-0.25, 0.02]	*
	2014	286	3.73 (0.65)				
自己の理解	2018	252	3.87 (0.73)	0.10	0.13	[-0.21, 0.02]	
	2014	286	3.88 (0.66)				
地域や社会に貢献する意識	2018	252	3.98 (0.76)	0.01	0.01	[-0.13, 0.11]	
	2014	286	3.96 (0.69)				
	2018	252	3.97 (0.80)				

キャリア教育・支援の充実

・2014 年度「キャリアデザイン A・B」



・2018 年度「キャリアデザインⅠ～Ⅳ」

Ⅰ 日本語力 Ⅱ 社会人基礎力

Ⅲ 各学生の進路に合わせた学び

Ⅳ 各学生の進捗に合わせた学び

+1年次前期から「インターンシップ」の機会

・キャリア支援部門のスタッフ人事（交代）と専任者1-2名へと増員

スタッフがキャリア教育の一部の授業を担当するだけでなく、学外の説明会参加を促したり、インターンシップの窓口になるなど、学生に対して親身にアプローチをしている

データ活用のポイント（１）

- ◆ 研究者による分析は、巨視的な動向把握は可能であるが、個別の短期大学の改善に資するのは難しい
- ◆ 各短期大学の全体像や教育プログラムについて把握している当事者でなければ、教育改善の状況を可視化は困難
- ◆ その一方で、短期大学の当事者だけでは、自機関の取り組みが日常的になされているため変化に気付くのが難しく、外部の研究者から情報を提示されることによって、教育効果や意義に気付くことも多いというコメントもあった。また、学内事情や実態が分からないがゆえに、良い結果も悪い結果も含め、バイアスなくデータを提示できる利点もある。

データ活用のポイント（2）

- ◆ やはり定期的にデータの蓄積をしたい
- ◆ 現場の方であれば過年度との単純比較でも十分使える（複雑な分析をする必要はない）
- ◆ 比較するのは他の短期大学ではなく自短期大学
- ◆ 全てを良くすることは難しく、数値が下がる＝悪い わけではない
- ◆ 短期大学として何をすべきか、何をしたいか。本来の3つのポリシーはこうした部分が反映されるのが望ましい